



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

平成29年度 学校要覧

目次

◆ 校長挨拶	P 2	◆ 専攻科	P25
◆ 高専制度	P 3	◆ 図書館	P29
◆ 校章・校歌	P 4	◆ 学生相談室	P30
◆ 沿革	P 5	◆ ものづくり教育センター	P30
◆ 教育理念	P 6	◆ 総合情報センター	P30
◆ 教育目的・目標（本科）	P 6	◆ 産学民連携テクノセンター	P31
◆ アドミッションポリシー	P 6	◆ キャリア支援室	P31
◆ 各学科の3つの方針	P 7	◆ 学生寮	P32
◆ 専攻科の3つの方針	P 9	◆ 学生会	P33
◆ 主な行事	P10	◆ 入学・在学状況	P34
◆ 組織	P11	◆ 卒業・修了状況	P35
◆ 一般科目	P13	◆ 研究活動	P36
◆ 学科			◆ 社会貢献	P36
機械工学科	P15	◆ 国際交流	P37
電気電子工学科	P17	◆ 技術者教育プログラム	P38
制御情報工学科	P19	◆ 財務	P40
生物応用化学科	P21	◆ 施設	P41
材料システム工学科	P23	◆ アクセス	P43



筑後川（手前）の畔に位置するキャンパス全景

校長挨拶

筑紫なる 清き山水 あつめきて 流れ流るる筑後川
ひる夜となく 流れ流るる 我らも進まん学びの道を
学びの道を!!

久留米工業高等専門学校校歌

春筑後路を訪れて 桜に薫る千歳川 幾代変らぬ此の流れ
あ、若人の夢を秘む

*「千歳川」は「筑後川」の古名
旧制久留米高等工業学校逍遙歌



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二



久留米高専は、九州随一の大河である筑後川のほとりに位置しています。春にはつつじの花が校舎いっばいに咲き競います。

機械、電気電子、制御情報、生物応用化学、材料システムの各工学科並びに専攻科機械・電気システム、物質の各工学専攻の学生たちは、豊かな自然に恵まれたキャンパスの中で5年間（専攻科の場合は7年間）の貴重な学びの時を共有しています。

教職員は教育理念に謳う「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」のために日々創意工夫と努力を重ねています。

久留米高専は旧制久留米高等工業学校が小森野の地に創設されてから75年余、現在の工業高等専門学校の歩みを始めてから50余年を経ました。1万3千余名に及ぶ卒業生・修了生は、同窓会活動を通して現在も豊富な人脈を築き上げ、国内外においてエンジニアとして社会人として多方面で活躍しています。

本校への志願状況並びに本校学生の進路状況は順調であります。本科については、福岡県南部を中心に広範囲の地域から多数の中学生の皆さんに志願していただいています。本科卒業生の6割を占める就職希望者への求人倍率は平成28年度28倍に上り、かつそのほとんどが全国や地元の有力企業に職を得ています。進学では、九州大学をはじめとする国公立大学への編入学や本校専攻科への進学を果たしています。

専攻科の進路も同様に芳しく、修了生のうちの就職希望者への求人倍率は平成28年度100倍近くに及び、

進学した人も、九州大学や東京工業大学等でさらなる研鑽の道を歩み始めています。

一方、本校の教育・研究施設は「産学民連携テクノセンター」棟の竣工（平成21年度）、女子寮の新設（平成23年度）、図書館棟の全面改修（平成25年度）、「ものづくり教育センター」の開所（平成26年度）等相次いで充実が図られています。さらに、昨年3月には管理棟の改修が実現しました。

近年の日本の産業構造の変化や技術科学の高度化の中で、産業界や地域・社会のニーズを踏まえたエンジニアの育成が課題となっており、実践的かつ創造的な教育を行っている高等教育機関としての高等専門学校の存在と役割が現在ひときわ注目を浴びています。

久留米高専は久留米市内の4大学・短大及び1高専からなる「高等教育コンソーシアム久留米」の立ち上げ（平成19年度）、久留米市との「事業協力に関する協定書」の締結（平成20年度）、「テクノネット久留米」の創設（平成24年度）等で産学民の連携を推し進め、昨年度は、一般社団法人日本歯車工業会（5月）、一般社団法人日本ゴム協会九州支部（8月）、久留米商工会議所（12月）との連携・協力協定を締結し、産業界や地域・社会からのご要望とご期待に着実に応えています。

今後とも久留米高専の教育・研究並びに学校運営に対して、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（平成29年4月）

高専制度

1. 高等専門学校とは

1950年代後半、我が国の経済成長はめざましく、それを支える科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者養成の要望が強まっていました。こうした産業界からの要請に応じて、1962年に初めて国立高等専門学校（「高専」）が設立されました。

高専は、社会が必要とする技術者を養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間一貫の技術者教育を行う高等教育機関として、現在、51の国立高専があります。実験・実習を重視した専門教育を早期の段階から行うことにより、20歳の卒業時には大学と同程度の知識・技術が身につけられるカリキュラムとなっています。

高専は、優秀な技術者を卒業生として送り出し、50年以上に渡って、モノづくり大国である日本を支えてきました。

2. 特色

（国立高等専門学校機構概要平成28年度版より）

(1) 教育

- ・15歳からの5年間一貫（商船学科は5年半）の技術者教育
- ・実験・実習を重視した専門教育
- ・専攻科でのより高度な2年間の教育
- ・多様な背景を有する優れた教員（30%以上が民間企業等の経験を有し、80%以上が博士号又は修士号を保有）
- ・卒業生には称号「準学士」を付与
- ・要件を満たした専攻科修了生には独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より学士号を授与

(2) 卒業後の多彩なキャリアパス

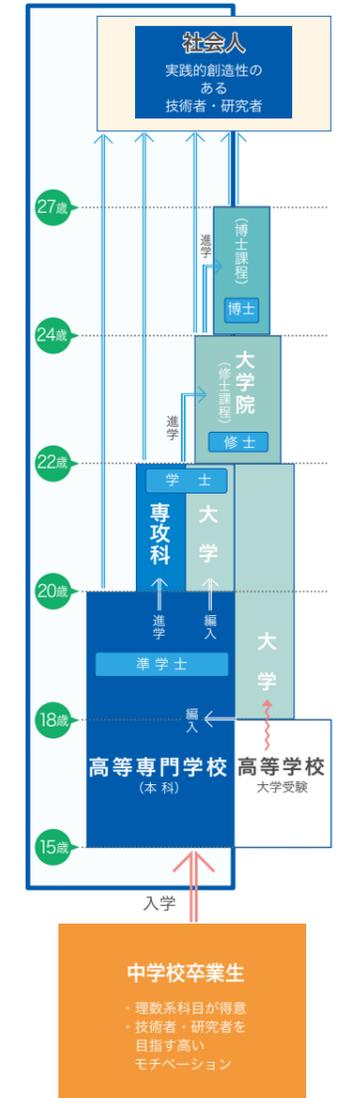
- ・本科卒業生の進路
約60%が就職
約40%が進学（専攻科進学、大学編入学）
- ・専攻科修了生の進路
約65%が就職
約35%が進学（大学院入学）

(3) 外部からの高い評価

- ・高い就職・進学率
- ・OECD2009「日本の高等教育に関するレビュー」
- ・中央教育審議会答申
平成20.12「高専教育の充実について」
平成23.1「キャリア教育・職業教育の充実について」
- ・平成23.10 ワシントンポスト紙
- ・平成24.12 マッキンゼー・アンド・カンパニー

(4) 豊かな人間形成

- ・「生徒」ではなく「学生」として主体性を重視
- ・すべてのキャンパスに学生寮を設置
- ・ロボコンを始めとする様々なコンテスト（ロボット、プログラミング、デザイン、英語プレゼンテーション）
- ・少人数によるきめ細やかな教育
- ・活発な課外活動



3. 主な費用（久留米工業高等専門学校の場合）

事項		金額	備考
入学科		84,600円	
授業料		234,600円/年	前期・後期各117,300円
学生寮	入寮費	1,000円	
	寄宿料	1人部屋:800円/月、その他:700円/月	
	寮費	諸経費 食費	8,000円/月 約30,900円/月

校章・校歌

1. 校章



久留米市は、つつじの名所として広く知られており、本校は、春ともなればつつじの花が色彩豊かに校庭いっぱい咲き競い、咲き乱れる。

校章はそのつつじの葉を形どったものであり、また葉脈は、学校のすぐ横を流れる九州一の大河である筑後川の流れを表象したもので、たゆまなく流れる川の流れは、たゆまなく学びの道に進みゆく姿を表したものである。

カラー : DIC249 (緑色部分)、DIC208 (黄色部分)

2. シンボルカラー

学校・学科名	色	DIC 番号	色見本
学校	緑 色	249	
機械工学科	黄 色	166	
電気電子工学科	紺 色	184	
制御情報工学科	空 色	N877	
生物応用化学科	赤 色	198	
材料システム工学科	紫 色	193	

3. 校歌

作詞 和栗 明
作曲 水野 康孝

1. 筑紫なる 清き山水
あつめて 流れ流るる
筑後川
ひる夜となく 流れ流るる
我らも進まん学びの道を
学びの道を !!

2. 春くれば つつじの花は
日に映えて 我が校庭に
咲き競う
いのちの限り 咲き競う
我らも咲かさん技術の花を
技術の花を !!

3. 紺碧の 空に聳ゆる
耳納山 永遠にゆるがで
世を譲る
雨降る日にも 嵐の夜も
我らも築かんゆるがぬものを
ゆるがぬものを !!

沿革

久留米工業高等専門学校は、昭和 14 年に官立の実業専門学校である久留米高等工業学校が開設されたことに起源を發します。同校は、高等教育改革の一環として昭和 19 年に久留米工業専門学校へ改称し、戦後の学制改革において昭和 24 年に九州大学へ包括されて九州大学久留米工業専門学校となった後、最後の卒業生を送り出した昭和 26 年に閉校となりました。

その後、昭和 33 年に久留米工業短期大学が、そして昭和 36 年に久留米工業短期大学附属工業高等学校が各々設立され、ここに 5 年制の高等工業教育のモデルケースが全国で初めて誕生しました。

そして、昭和 39 年に久留米工業短期大学及び同附属工業高等学校から移行する形で現在の久留米工業高等専門学校が設立されました。これに伴い、久留米工業短期大学附属工業高等学校は廃止され、その在校生は久留米工業高等専門学校へ編入されましたが、その結果、昭和 41 年に全国で初めて高等専門学校の卒業生を輩出するに至っています。

また、平成 5 年には九州の高等専門学校で最初に専攻科を設置しました。

年表



久留米高等工業学校・
久留米工業専門学校

- 昭和 14 年 5 月 久留米高等工業学校設立 (機械科、精密機械科、工作機械科、鋳山機械科、採鋳科)
初代校長 小林 俊次郎 就任
第 1 回入学式挙行
- 昭和 16 年 12 月 第 1 回卒業式挙行
- 昭和 17 年 4 月 化学工業科設置
- 昭和 19 年 4 月 久留米工業専門学校に改称
- 昭和 20 年 11 月 二代校長 大脇 策市 就任
- 昭和 21 年 4 月 ゴム工業科設置
- 昭和 24 年 5 月 九州大学に包括され、九州大学久留米工業専門学校となる。
- 昭和 26 年 3 月 第 10 回卒業式挙行
九州大学久留米工業専門学校廃止
卒業生総数 2,654 名



久留米工業短期大学

- 昭和 33 年 4 月 久留米工業短期大学設立 (機械科、工業化学科)
初代学長 九州大学長 山田 穰 (併任)
6 月 二代学長 九州大学 教授 葛西 泰二郎 (併任)
第 1 回入学式挙行
第 1 回卒業式挙行
- 昭和 35 年 3 月 電気科設置
- 昭和 36 年 4 月 久留米工業短期大学附属工業高等学校設立 (機械科、電気科、工業化学科)
同校初代校長 九州大学 教授 葛西 泰二郎 (併任)
同校第 1 回入学式挙行
5 月 三代学長 和栗 明 就任 (附属工業高等学校長を併任)
- 昭和 37 年 4 月 短期大学、附属工業高等学校に金属学科設置、機械科 1 学級増設
- 昭和 39 年 3 月 附属工業高等学校廃止 (在校生は同年 4 月設立の久留米工業高等専門学校に編入学)
- 昭和 41 年 3 月 第 7 回卒業式挙行
久留米工業短期大学廃止
卒業生総数 752 名

久留米工業高等専門学校

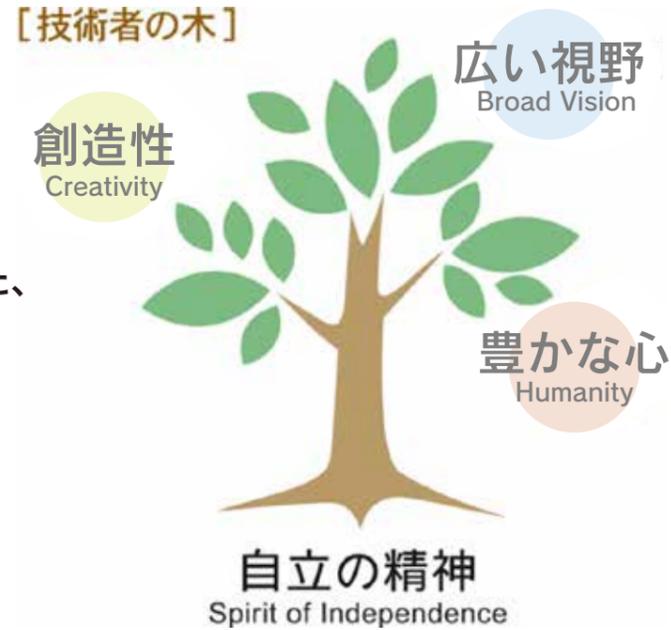
- 昭和 39 年 4 月 久留米工業高等専門学校設立 (機械工学科 2 学級、電気工学科、工業化学科、金属工学科)
初代校長 和栗 明 就任
第 1 回入学式、編入学式挙行
- 昭和 41 年 3 月 第 1 回卒業式挙行
- 昭和 49 年 10 月 創立 10 周年記念式典挙行
- 昭和 51 年 7 月 二代校長 園田 正明 就任
- 昭和 59 年 4 月 三代校長 西川 兼康 就任
10 月 創立 20 周年記念式典挙行
- 昭和 62 年 4 月 金属工学科を材料工学科へ改組
- 平成 元年 4 月 四代校長 長谷川 修 就任
- 平成 3 年 4 月 機械工学科 2 学級のうち 1 学級を制御情報工学科へ改組
- 平成 5 年 4 月 専攻科設置
専攻科第 1 回入学式挙行
- 平成 6 年 4 月 五代校長 谷口 宏 就任
10 月 創立 30 周年記念式典挙行
- 平成 7 年 3 月 専攻科第 1 回修了式挙行
- 平成 8 年 4 月 工業化学科を生物応用化学科へ改組
- 平成 11 年 4 月 六代校長 柳 謙一 就任
- 平成 13 年 4 月 電気工学科を電気電子工学科へ名称変更
- 平成 16 年 4 月 独立行政法人国立高等専門学校機構設置
- 平成 17 年 4 月 七代校長 前田 三男 就任
- 平成 22 年 4 月 八代校長 上田 孝 就任
- 平成 26 年 11 月 創基 75 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行
- 平成 27 年 4 月 九代校長 三川 譲二 就任
- 平成 29 年 4 月 材料工学科を材料システム工学科に名称変更

久留米工業高等専門学校歴代校長

代	氏名	在任期間
初代	和栗 明	昭 39. 4 ~ 昭 51. 6
2 代	園田 正明	昭 51. 7 ~ 昭 59. 3
3 代	西川 兼康	昭 59. 4 ~ 平元. 3
4 代	長谷川 修	平元. 4 ~ 平 6. 3
5 代	谷口 宏	平 6. 4 ~ 平 11. 3
6 代	柳 謙一	平 11. 4 ~ 平 17. 3
7 代	前田 三男	平 17. 4 ~ 平 22. 3
8 代	上田 孝	平 22. 4 ~ 平 27. 3
9 代	三川 譲二	平 27. 4 ~

教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成



教育目的・目標（本科）

1 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。
ア 自立の精神と創造性に富んだ技術者
イ 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
ウ 社会に貢献できる技術者

2 教育目標

ア 広い視野と豊かな心の涵養
イ 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
ウ 専門に関する基礎知識と技術の修得
エ 問題を分析し、解決する能力の育成
オ 自ら学び、工夫する能力の育成
カ コミュニケーション能力の育成

アドミッションポリシー

1 本科

1. 技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

2 専攻科

1. 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

各学科の3つの方針

機械工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 機械技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

電気電子工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術 (ICT)、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 電気電子技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

制御情報工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い制御工学と情報工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 制御工学と情報工学に関する専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 制御情報技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

生物応用化学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者（生物化学または応用化学）を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い応用化学や生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 化学工業やバイオ工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

生物応用化学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

材料システム工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い工業材料に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する材料工学の専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため次のような人を求めています。

1. 材料技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

専攻科の3つの方針

機械・電気システム工学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

機械・電気システム工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び機械・電気システム工学専攻で定めた専門必修科目、更に機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、機械工学、電気電子工学または情報工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

- (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

物質工学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

物質工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定められた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。

専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び物質工学専攻で定めた専門必修科目、更に生物応用化学または材料工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、応用化学または材料工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

- (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

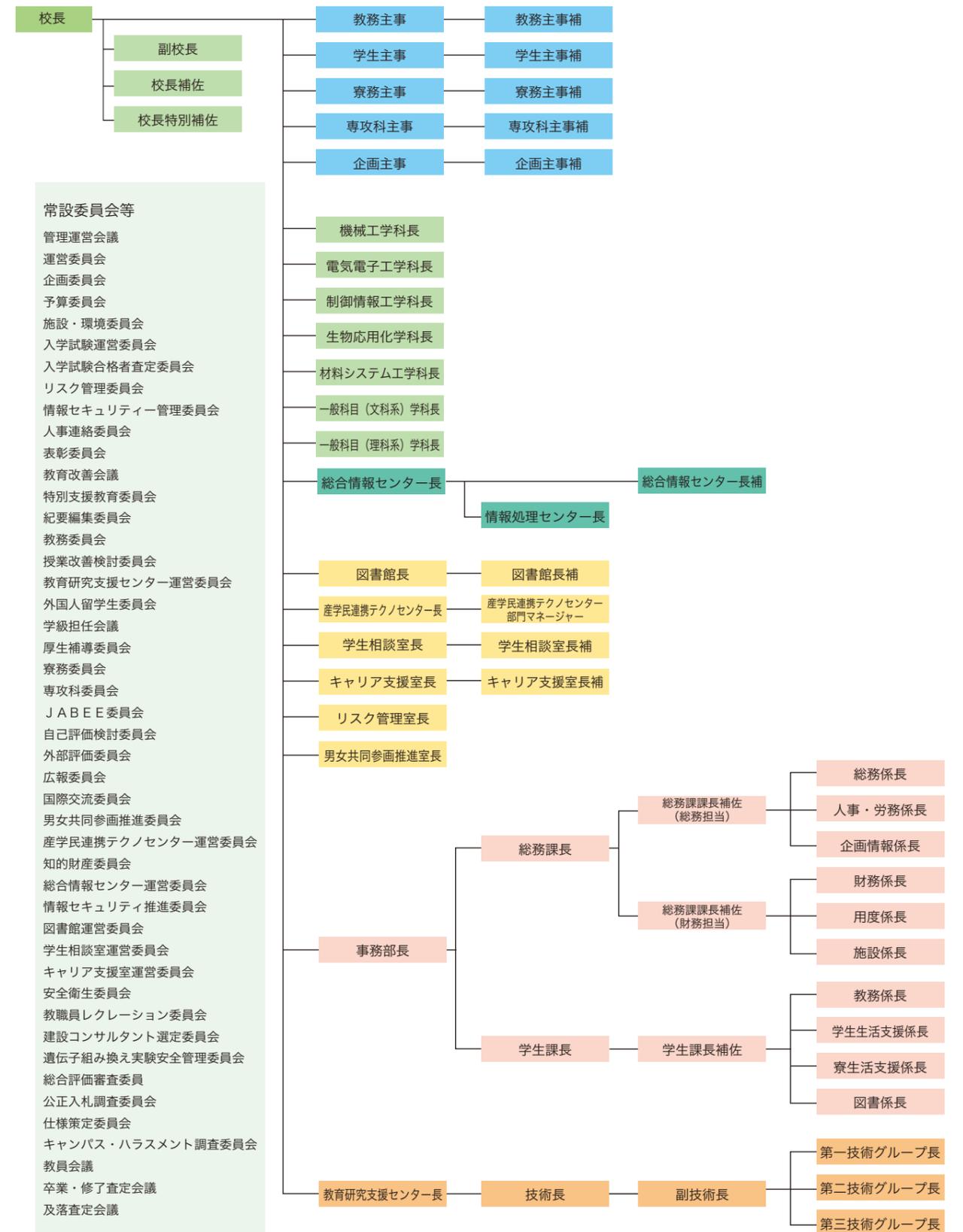
主な行事 (平成 29 年度予定)

前期	
4月	1日 春季休業 (~6日) 6日 入学式 7日 始業式 18日 開校記念日 28日 1年生合宿研修 (~29日)
5月	10日 学生大会 15日 クラスマッチ (~16日) 17日 防災総合訓練
6月	5日 中間試験 (~9日) 17日 専攻科入学試験 (前期) 24日 文化部発表会
7月	22日 夏季休業 (~8月30日)
8月	17日 一日体験入学 (~18日) 21日 一斉休業 (25日, 28日)
9月	6日 全校集会 12日 前期末試験 (~21日) 25日 工場見学旅行 (~29日)

後期	
10月	7日 専攻科入学試験 (後期)
11月	2日 高専祭 (前夜祭) 3日 高専祭 (文化祭) 5日 高専祭 (体育祭) 25日 編入学試験 27日 中間試験 (~12月1日)
12月	12日 学生大会 12日 クラスマッチ (~13日) 23日 冬季休業 (~1月8日) 28日 一斉休業
1月	4日 一斉休業 20日 入学者選抜 (推薦) 27日 予餞会
2月	9日 後期末試験 (~21日) 18日 入学者選抜 (学力)
3月	5日 終業式 15日 卒業式、修了式 16日 学年末休業 (~31日)

組織

1. 組織図



2. 教職員数 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

(1) 教員

	校長	教授	准教授	講師	助教	合計
標準人員枠 (定員)	1	36	35	-	7	79
実行人員枠 (現員)	校長	1	-	-	-	1
	機械工学科	-	4	6	-	1
	電気電子工学科	-	5	4	2	-
	制御情報工学科	-	6	3	-	2
	生物応用化学科	-	5	5	-	1
	材料システム工学科	-	3	4	-	3
	一般科目 (文科系)	-	4	7	-	1
一般科目 (理科系)	-	4	6	1	1	
合計	1	31	35	3	9	79

※フルタイム再雇用教員 (特任教授・特任准教授) は助教に含みます。 ※現員には高専間人事交流等による教員を含みます。

※休職者代替の臨時雇用教員を含みません。

教員の年齢構成

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
60歳～	6	2	-	-	8
50歳～59歳	19	2	-	-	21
40歳～49歳	7	23	1	-	31
30歳～39歳	-	9	2	3	14
20歳～29歳	-	-	-	4	4
合計	32	36	3	7	78

※フルタイム再雇用教員である特任教授は教授、特任准教授は准教授に含みます。

(2) 職員

	事務部長	課長	課長補佐	専任職員	係長	技術長	技術専門員	看護師	技術・一般職員等	合計
標準人員枠 (定員)	1	2	4	9	1	2	1	25	45	
実行人員枠 (現員)	事務部	1	-	-	-	-	-	-	1	
	総務課	-	1	2	6	-	-	-	8	
	学生課	-	1	1	3	-	-	1	5	
	教育研究支援センター	-	-	-	-	1	-	-	14	
	合計	1	2	3	9	1	0	1	27	

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等を指します。

3. 管理職等教職員 (平成 29 年 5 月 1 日現在)

職名	氏名	職名	氏名
校長	三川 譲二	一般科目 (文科系) 学科長	安部 規子
教務主事・副校長	辻 豊	一般科目 (理科系) 学科長	松田 康雄
企画主事・副校長	江崎 昇二	総合情報センター長	加藤 直孝
学生主事・校長補佐	石丸 良平	図書館長	宮本 久一
寮務主事・校長補佐	小田 幹雄	産学民連携テクノセンター長	中島 裕之
専攻科主事・校長補佐	奥山 哲也	学生相談室長	福田かおる
機械工学科長	中武 靖仁	キャリア支援センター長	越地 尚宏
電気電子工学科長	池田 隆	事務部長	平尾 耕二
制御情報工学科長	丸山 延康	総務課長	津田 雅弘
生物応用化学科長	梶 隆彦	学生課長	遠藤 真一
材料システム工学科長	川上 雄士	教育研究支援センター長	辻 豊

一般科目

1. 概略

高専教育の特色は 5 年間の一貫した教育を行うことです。一般科目は専門科目と相まって、優れた技術者の育成を期するため、広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間形成を目標とします。

一般科目のうち、文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養と語学力の養成を、また理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培うことを主眼にして教育が行われています。

2. 教員

(1) 一般科目 (文科系)

① 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目 (青字は専攻科)
安部 規子	教授	博士 (教育学)	第二言語習得	英語Ⅱ、英語Ⅳ、実用英語、実践英語Ⅰ
福田かおる	教授	Doctor of Philosophy	社会人類学・英国文化	英語演習Ⅰ、英語演習Ⅲ、英語Ⅴ、西欧文化論、文化人類学
小林美恵子	教授	博士 (文学)	近現代日本文学	国語Ⅰ、国語Ⅱ、日本語、日本文学
龍頭 信二	教授	修士 (教育学)	運動生理学	保健、体育Ⅰ、体育Ⅲ、スポーツ科学
米永 正敏	准教授		英語教育	英語Ⅱ、英語演習Ⅲ、英語Ⅳ
金城 博之	准教授	修士 (文学)	発信型英語教育の開発及び 19 世紀英国小説	英語Ⅰ、英語Ⅳ、時事英語、実践英語Ⅲ、専攻科インターンシップ、先端工学特論、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
藍澤 光晴	准教授	博士 (経済学)	経済史	地理、政治・経済、経済学
横溝 彰彦	准教授	Master of Arts in Speech Communication	コミュニケーション学	英語Ⅰ、英語Ⅴ、英語講読、実践英語Ⅱ
岡本 和也	准教授	修士 (文学)	中世東地中海世界の歴史	世界史、アラブ文化、歴史学入門
赤塚 康介	准教授	博士 (理学)	運動生理学	保健、体育Ⅰ、体育Ⅱ
藤木 篤	准教授	博士 (学術)	技術者倫理、技術の哲学、環境倫理学	倫理、技術哲学、環境倫理学、工学倫理
小宮 厚	特任准教授	文学修士	中国思想	国語Ⅰ、国語Ⅱ、中国思想史

② 非常勤講師

氏名	担当科目	本務
植崎洋一郎	国語Ⅰ (古典)、国語Ⅱ (古典)、国語Ⅲ	久留米工業高等専門学校 非常勤講師
木本 拓哉	国語Ⅱ、国語Ⅲ、東洋文学史	久留米工業高等専門学校 非常勤講師
明官 秀隆	体育Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ	元 旭川高専 教授
行實 鉄平	体育Ⅲ・Ⅴ	久留米大学 人間健康学部 准教授
奥野 真由	体育Ⅳ・Ⅴ	日本大学 非常勤講師
江島 孝則	英語Ⅰ、英語演習Ⅰ、英語Ⅴ	元 久留米工業高等専門学校 教授
清原 恵子	英語Ⅱ	元 高校教師
江島 孝人	英語演習Ⅰ、英語Ⅲ	筑紫女学園大学 非常勤講師
ポシール ジャンクロード	英語演習Ⅱ	語学学校経営
ポール マップフェー ジョン ミーイン	英語演習Ⅱ	語学学校経営
永吉 守	地理	大牟田市石炭産業科学館 学芸員
川浪 朋恵	地理	久留米工業高等専門学校 非常勤講師
古川 順大	日本史	九州大学大学院人文科学部博士後期課程
松尾 弘毅	日本史	福岡工業大学 非常勤講師
鎌田 厚志	法学、政治学	九州大学大学院法学研究院 協力研究員
水頭 順子	音楽	九州龍谷短期大学保育科 教授
今田 淳子	美術	芸術作家
趙 淑範	中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	国際医療福祉大学 非常勤講師
安 静珠	韓国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	福岡女子大学 非常勤講師
日高 雅彦	ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	西南学院大学 非常勤講師

(2) 一般科目 (理科系)

① 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目 (青字は専攻科)
松田 康雄	教授 / 学科長	博士 (数理学)	数学	数学Ⅰ、Ⅱ (A、B)、Ⅲ (A、B)
篠島 弘幸	教授	博士 (工学)	材料物性・量子エレクトロニクス	物理、応用物理実験、応用物理Ⅰ、統計力学及び熱力学、現代物理学
宮本 久一	教授	工学博士	化学	化学Ⅰ、化学Ⅱ、化学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
酒井 健	教授	博士 (工学)	極限物性	物理、応用物理Ⅰ
山崎 有司	准教授	修士 (理学)	薄膜	物理、応用物理Ⅰ、応用物理実験
菰田智恵子	准教授	博士 (理学)	一般位相幾何学	数学Ⅰ、Ⅱ (A、B)、Ⅲ (A、B)、応用数Ⅱ
高橋 正郎	准教授	修士 (理学)	微分幾何	数学Ⅰ、Ⅱ (A、B)、Ⅲ (A、B)
谷 太郎	准教授	博士 (理学)	素粒子理論	(国内研究員)
酒井 道宏	准教授	博士 (数理学)	代数的位相幾何学	数学Ⅰ、Ⅱ (A、B)、Ⅲ (A、B)
黒飛 敬	准教授	博士 (理学)	化学	化学Ⅰ、化学Ⅱ、化学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
川嶋 克利	講師	博士 (理学)	非可換幾何学	数学Ⅰ、Ⅱ (A、B)、Ⅲ (A、B)、応用数Ⅲ
沖田 匡聡	助教	博士 (数理学)	偏微分方程式論	数学Ⅰ、Ⅱ (A、B)、Ⅲ (A、B)、応用数Ⅱ

②非常勤講師

氏名	担当科目	本務
原田 哲夫	数学Ⅱ B・Ⅲ A	予備校講師
西岡 昌幸	数学Ⅱ B	九州大学マス・フォア・インダストリ研究所 博士研究員
古賀 勇	数学Ⅲ A	九州大学大学院数理学府博士後期課程
大槻かおり	応用物理Ⅱ	福岡大学理学部物理科学科 助教
福田 遼平	応用物理Ⅱ	九州大学大学院数理学府博士後期課程
一政遼太郎	応用物理Ⅱ	九州大学大学院数理学府博士後期課程
中園 良子	生物	朝倉高校 非常勤講師
藤本 晶子	地学	九州大学国際宇宙天気科学・教育センター学術研究員

3. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
デジタル語学演習システム	Adill-1000 System	1 式	マルチメディア教室
英語 e-learning 教材	NetAcademy PowerWords コース他	—	—
英語学習用 PC		24 台	PC 学習室
赤外分光光度計	JASCO、FT/IR4100	1 台	一般化学多目的室
旋光度計	JASCO、DIP-1000	1 台	一般化学多目的室

4. 教育課程 (本科1～5年)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語	国語Ⅰ	3	3				
	国語Ⅱ	3		3			
	国語Ⅲ	2			2		
社会	倫理	2	2				
	地理	2	2				
	世界史	2		2			
	政治・経済	2		2			
	日本史	2			2		
数学	数学Ⅰ	6	6				
	数学ⅡA	4		4			
	数学ⅡB	2		2			
	数学ⅢA	4			4		
	数学ⅢB	2			2		
	物理	4		4			
	化学Ⅰ	3	3				Cは4単位
必修科目	化学Ⅱ	2		2			Cは1単位
	生物	2	2				A、E、S
	生物学Ⅰ	2	2				C
	地学	2	2				M
	英語Ⅰ	4	4				
	英語演習Ⅰ	2	2				
	英語Ⅱ	3		3			
	英語演習Ⅱ	2		2			
	英語Ⅲ	2			2		
	英語演習Ⅲ	2			2		
英語Ⅳ	2				2		
英語Ⅴ	1					1	
保健・体育	保健	1	1				
	体育Ⅰ	2	2				
	体育Ⅱ	2		2			
	体育Ⅲ	2			2		
	体育Ⅳ	1				1	
	体育Ⅴ	1					1
芸術	美術	1	1				A、S、C、M
	音楽	1	1				E
必修科目修得小計	75	28	26	16	3	2	A、E、S、M
	75	29	25	16	3	2	C

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
I群 (人文社会科学系)	西欧文化論	1				1 (1)	2単位以上修得(開講科目は変更する場合があります。修得できなかった科目は「(1)」で表記されている学年に履修できる。)
	中国思想史	1				1 (1)	
	文化人類学	1				1 (1)	
	日本文学	1				1 (1)	
	法学	1				1 (1)	
	アラブ文化	1				1 (1)	
	東洋文学史	1				1 (1)	
	技術哲学	1				1 (1)	
	経済学	1				1 (1)	
	スポーツ科学	1				1 (1)	
II群 (語学系)	政治学	1				1 (1)	1単位以上修得(開講科目は変更する場合があります。修得できなかった科目は「(1)」で表記されている学年に履修できる。)
	歴史学入門	1				1 (1)	
	時事英語	1				1 (1)	
	実用英語	1				1 (1)	
	英語講読	1				1 (1)	
	中国語Ⅰ	1				1 (1)	
	中国語Ⅱ	1				1	
	中国語Ⅲ	1				1	
	韓国語Ⅰ	1				1 (1)	
	韓国語Ⅱ	1				1	
韓国語Ⅲ	1				1		
ドイツ語Ⅰ	1				1 (1)		
ドイツ語Ⅱ	1				1		
ドイツ語Ⅲ	1				1		
選択科目修得小計	3以上					3以上	
一般科目修得合計	78以上	28	26	16	8以上		A、E、S、M
	78以上	29	25	16	8以上		C

※ A: 機械工学科
 E: 電気電子工学科
 S: 制御情報工学科
 C: 生物応用化学科
 M: 材料システム工学科

機械工学科

1. 概略

機械工学科は、以下の教育目的・目標の下、主に機械設計、機械加工、機械の4力学(材料力学、機械力学、流体力学、熱力学)に関する教育を行っています。

最先端のものづくりのため、3次元設計・解析・製造過程のデジタルエンジニアリング教育を実践しているのが本学科の特徴です。

卒業生は、主に航空・宇宙、自動車、重工業、エネルギー・環境、ロボット、電力、鉄鋼、電機、化学、医薬品・食品など広範囲な産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

(2) 教育目標

機械技術者としての素養を備え、基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目 (青字は専攻科)
原田 豊満	教授	博士(工学)	材料力学	応用物理Ⅰ、機械工学概論(3E、5C)、材料力学Ⅱ、材料力学、機械要素設計実験、産業財産権特論、弾塑性力学、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
和泉 直志	教授	工学博士	機械要素	機械加工実習Ⅰ、機械加工実習Ⅱ、加工実習、材料加工実習、機械加工実習Ⅲ、機械設計法Ⅰ、精密加工学、トライボロジー、設計システム工学、トライボロジー解析学、短期インターンシップ、専攻科研究基礎
中武 靖仁	教授 / 学科長	博士(工学)	環境エネルギー工学	化学製図、機械工学概論(3E、5C)、機械設計製図、短期インターンシップ、機械工学セミナー、エネルギー変換工学、伝熱工学、地球環境と現代生物学、機械工学特論、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
石丸 良平	教授	博士(工学)	歯車工学	機械製図Ⅰ、図学(1M・2E)、機構学、機械製図Ⅲ、専門基礎(機械工学)、機械設計製図、機械設計法Ⅱ
青野 雄太	准教授	博士(工学)	材料力学	機械製図Ⅱ、CAD演習、材料力学Ⅰ、材料力学Ⅱ、四力学演習、材料強度学、破壊力学
中尾 哲也	准教授	博士(情報工学)	制御工学	専門基礎(機械工学)、工業力学、四力学演習、機械要素設計実験、機械力学、制御工学、応用情報処理演習、創造工学実験、計算力学
谷野 忠和	准教授	博士(工学)	流体工学	応用数学Ⅰ、四力学演習、流体工学、機械要素設計実験、流体機械、先端工学特論、応用流動工学、専攻科インターンシップ、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
田中 大	准教授	博士(工学)	熱工学	工業英語、四力学演習、工業熱力学、機械要素設計実験、創造工学実験、移動現象論、技術英語、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
細野 高史	准教授	博士(工学)	特殊加工	機械加工実習Ⅰ、機械工作実習、機械加工実習Ⅱ、材料加工実習、機械加工学、機械加工実習Ⅲ、専門基礎(機械工学)、機械工学概論(3E)、機械加工、応用数学Ⅲ、生産管理、品質管理、生産加工学
南山 靖博	准教授	博士(工学)	安全工学	情報処理基礎、安全工学(4A、4E)、CAD演習、プログラミング、専門基礎(機械工学)、応用数学Ⅱ、計測工学、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
渡邊 悠太	助教	博士(工学)	表面処理	機械製図Ⅰ、図学、機械設計法士、専攻科研究基礎
全員が担当することを基本とする授業科目				機械工学導入セミナー、プロダクトデザイン、機械工学実験、卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目 (青字は専攻科)	本務
中村 理央	物理	久留米工業大学 非常勤講師
渡邊 聡	機械工学セミナー流体工学特論	九州大学大学院工学研究院 教授
野口 博司	機械工学セミナー材料力学特論	九州大学大学院工学研究院 教授
森田 昌嗣	機械工学セミナーデザイン工学特論	九州大学大学院芸術工学研究院 教授
林 英治	機械工学セミナー制御工学特論	九州工業大学情報工学部 教授
宮崎 隆彦	機械工学セミナー熱工学特論	九州大学大学院総合理工学研究院 准教授
黒河 周平	機械工学セミナー設計工学特論	九州大学大学院工学研究院 教授
原 信海	産業財産権入門、産業財産権特論	原特許事務所 所長
元村 直行	産業財産権特論	福岡県知的所有権センター、特許流通コーディネーター
リー リチャード アレン	テクニカルコミュニケーション	久留米工業大学共通教育科 英語講師
松永 崇	工学倫理	久留米工業高等専門学校 名誉教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
5軸マシニングセンター	マザック VARIAXIS 500-5X II	1 式	ものづくり教育センター
ワイヤ放電加工機	牧野フライス製作所 U3	1 式	ものづくり教育センター
表面粗さ・輪郭形状複合測定機	東京精密 SURFCOM 2900DX3/SD3	1 式	ものづくり教育センター
精密万能試験機 (30Tf)	島津製作所 オートグラフ AG-300kNXPlus	1 式	材料力学実験室
油圧サーボ式引張圧縮疲労試験機 (20Tf)	島津サーボパルサ EHF-EV200k1-070-1A	1 式	材料力学実験室
コモンレール式ディーゼル機関性能実験装置	FC デザイン DA50UW	1 式	熱工学実験室
赤外線サーモグラフィ	アドバンストサーモ TVS-500EX	1 式	熱工学実験室
3次元プリンター	Stratasys Oject30Scholar	1 式	機械要素設計実験室

5. 教育課程 (専門科目)

授業科目	単位数	学年別配当					備考	授業科目	単位数	学年別配当					備考			
		1年	2年	3年	4年	5年				1年	2年	3年	4年	5年				
専門数学	応用数学Ⅰ	1				1		製造技術 必修科目 熱流体 実験 専門関連 選択科目	機械加工学	1				1				
	応用数学Ⅱ	1				1			精密加工学	1					1			
	応用数学Ⅲ	1					1			生産管理	1						1	
専門理科	応用物理Ⅰ	2			2				品質管理	1							1	
	応用物理Ⅱ	2			2				機械加工実習Ⅰ	3	3							
	応用物理実験	2			2				機械加工実習Ⅱ	3		3						
技術者素養	化学実験	2		2					機械加工実習Ⅲ	3			3					
	機械工学導入セミナー	1	1						機械材料学	1				1				
	安全工学	1			1				高分子材料学	1						1		
	工業倫理	1				1			流体工学	2				2				
	工業英語	1				1		流体機械	1						1			
必修科目	機械工学セミナー	2					2	工業熱力学	2						2			
	図学	2		2				伝熱工学	2							2		
	機械製図Ⅰ	2	2					エネルギー変換工学	1							1		
	CAD演習	1			1			電気工学実験	1							1		
	機械製図Ⅱ	2	2					機械工学実験	3						3			
	機械設計製図	3			3			卒業研究	6							6		
	機械要素設計実験	2				2		電気・電子工学概論	2						2			
	機械設計法Ⅰ	2				2		化学工学概論	1							1		
	機械設計法Ⅱ	1				1		必修科目修得小計	89	6	10	19	28	26				
	トライボロジー	1				1		短期インターンシップ	1						1			
	プロダクトデザイン	2				2		テクニカルコミュニケーション	1							1		
	計測工学	1				1		機械工学概論	1						1	4年編入生のみ履修		
	機構学	1			1			選択科目修得小計	0									
	工業力学	2				2		専門科目修得合計	89	6	10	19	28	26				
	力学	材料力学Ⅰ	1			1			必修科目	75	28	26	16	3	2			
材料力学Ⅱ	2				2			一般	3					3	以上			
材料強度学	1				1			小計	78	28	26	16	8	以上				
四力学演習	2				2			必修科目	89	6	10	19	28	26				
制御情報	情報処理基礎	1		1				専門	0									
	プログラミング	1			1			選択科目	89	6	10	19	28	26				
	制御工学	2				2		小計	89	6	10	19	28	26				
		総修得単位数	167	34	36	35	62	以上										

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、佐賀大学理工学部、宮崎大学工学部、関西大学システム理工学部、熊本大学工学部、九州工業大学工学部、鹿児島大学工学部、豊橋技術科学大学工学部

(2) 就職先

三菱重工業(株)、本田技研工業(株)、ダイハツ工業(株)、富士重工業(株)、新日鐵住金(株)、(株)IHI、三井造船(株)、ANA(株)、(株)小松製作所、(株)牧野フライス製作所、ファナック(株)、ダイキン工業(株)、東海旅客鉄道(株)(JR東海)、キヤノン(株)、セイコーエプソン(株)、日本精工(株)、第一精工(株)、NOK(株)、(株)カシフジ、黒崎播磨(株)、JXエンジニアリング(株)、(株)ニコン、日本精工九州(株)、福岡酸素(株)、(株)マツダE&T、三菱日立パワーシステムズ(株)、(株)明電舎

電気電子工学科

1. 概略

電気電子工学科では、以下の教育目的・目標の下、主に電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。

工学基礎を学ぶ講義を始め、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取組める応用力育成を図るのが、本学科の特徴です。

卒業生は、製造業、エネルギー産業に加え、流通、情報産業に渡る広い分野の技術者として活躍しています。さらに、一定の実務経験により電気主任技術者の国家資格を得ることができます。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

先端技術であるエレクトロニクスとICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

(2) 教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目 (青字は専攻科)
池田 隆	教授 / 学部長	博士 (工学)	音声信号処理	電気電子実践演習Ⅰ、電気電子実践演習Ⅱ、電気電子工作実習、マイコン応用、短期インターンシップ、電気電子設計、電子通信実験、創造工学実験、電気電子工学特論、デジタル信号処理、先端工学特論
加藤 直孝	教授	博士 (政策・メディア)	人工知能	プログラミングⅠ、プログラミングⅡ、電気電子実践演習Ⅱ、プログラミングⅢ、専門基礎 (電気電子工学)、計算機アーキテクチャⅡ、電気機器実験、データ通信、通信工学、通信ネットワーク、コンピュータサイエンス、電気電子工学特論、専攻科研究論文、専攻科研究基礎
越地 尚宏	教授	博士 (理学)	物性物理学	電気磁気学Ⅰ、電気磁気学Ⅱ、専門基礎 (電気電子工学)、積分変換、ベクトル解析・複素関数、制御工学Ⅰ、電子通信実験、量子力学、創造工学実験、電気電子工学特論、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
平川 靖之	教授	博士 (工学)	レーザー分析	電気電子工学基礎、電気回路Ⅰ、電気電子CAD、電気電子基礎実験、電気回路Ⅲ、気体電子工学、電気電子工学特論、光エレクトロニクス、技術英語
掛橋 英典	教授	博士 (工学)	照明工学	電気・電子工学概論、アナログ電子回路、電熱・空調、照明設備、電気工学実験、応用電磁気学
山口 崇	准教授	博士 (工学)	磁気応用・計測	電気電子実践演習Ⅰ、電気電子工作実習、デジタル電子回路、電気電子工学演習、電子通信実験、システム工学、信頼性工学、専攻科研究基礎
宮崎 浩一	准教授	博士 (工学)	プラズマ科学	電気電子実践演習Ⅰ、電気電子実践演習Ⅱ、気体電子工学、アクチュエータ、パワーエレクトロニクス、高電圧工学、電気機器実験、パワーエレクトロニクス応用、電子通信実験、プラズマ工学、専攻科研究論文
WURENTUYA	准教授	博士 (工学)	高周波工学	計算機アーキテクチャⅠ、電気回路Ⅱ、ワンチップマイコン、電気電子基礎実験、電気電子計測、工業英語、電気機器実験、電子通信実験、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
村上 秀樹	准教授	博士 (工学)	半導体工学	電気電子実践演習Ⅱ、電気電子基礎実験、半導体工学、半導体デバイス、制御工学Ⅱ、電力実験、集積回路工学、専攻科研究基礎
原 卓伸	講師	修士 (工学)	電子回路	(休職中)
Frank Carbullido	講師	修士 (経営学)		電気電子実践演習Ⅰ、電気電子実践演習Ⅱ、技術英語
山本 哲也	講師	博士 (工学)	磁気応用・計測	電気電子工作実習、電気電子実践演習Ⅱ、電気磁気学Ⅱ、電気機器工学、電気磁気学Ⅲ、電気機器実験、短期インターンシップ、送電システム、配電システム、電力実験、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	本務
末廣 純也	電力発生工学	九州大学大学院システム情報科学研究院 教授
石井登希雄	電気法規	九州電力(株)
奥村 浩	工学倫理	佐賀大学大学院 教授
大槻かおり	応用物理Ⅱ	福岡大学理学部物理科学科 助教

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
太陽光エネルギーシミュレータシステム	エヌエフ回路ブロック製 FUK54519、10kW、系統連系対応	1 式	電気機器・自然エネルギー実験室
電動機-発電機実験装置	精工社製作所製、2.2kW 直流機・誘導機・同期機	1 式	電気機器・自然エネルギー実験室
電子回路・プリント基板設計 CAD	メンターグラフィックス	200 ライセンス	L1、L2 及び各実験室
テラヘルツ時間領域分光システム	大塚電子 TR-100KS	1 式	機械・電気システム工学実験室
プロセス・デバイスシミュレータ	VENUS-2D/B、VS-P/B、VEGA	1 式	半導体・信号処理実験室
走査型電子顕微鏡 (SEM)	TOPCON ABT-32	1 式	半導体・信号処理実験室

5. 教育課程 (専門科目)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
電気電子工学基礎	1	1					
電気磁気学Ⅰ	1		1				
電気磁気学Ⅱ	2			2			
電気磁気学Ⅲ	1				1		
電気回路Ⅰ	1		1				
電気回路Ⅱ	2			2			
電気回路Ⅲ	2				2		
気体電子工学	2			2			
半導体工学	1				1		
半導体デバイス	1					1	
応用物理Ⅰ	2			2			
応用物理Ⅱ	2				2		
積分変換	2				2		
ベクトル解析・複素関数	2				2		
電気機器工学	1			1			
アクチュエータ	1				1		
パワーエレクトロニクス	1				1		
パワーエレクトロニクス応用	1					1	
高電圧工学	2				2		学修単位
電力発生工学	1					1	
送電システム	1					1	
配電システム	1					1	
電熱・空調	1					1	
照明設備	1					1	
機械工学概論	2			2			
制御工学Ⅰ	1				1		
制御工学Ⅱ	1					1	
プログラミングⅠ	2	2					
プログラミングⅡ	1		1				
プログラミングⅢ	1			1			
計算機アーキテクチャⅠ	1		1				
計算機アーキテクチャⅡ	1				1		
デジタル電子回路	2			2			
アナログ電子回路	2				2		
ワンチップマイコン	1			1			
マイコン応用	1				1		
電気電子計測	2				2		学修単位
通信工学	1					1	
データ通信	1					1	
通信ネットワーク	1					1	

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
安全工学	1					1	
工業倫理	1					1	
電気法規	1					1	
工業英語	1					1	
電気電子CAD	2		2				
電気電子材料	1					1	
電気電子設計	1					1	
電気電子工作実習	1	1					
機械工作実習	1	1					
化学実験	2		2				
応用物理実験	2			2			
電気電子基礎実験	2			2			
電気機器実験	4					4	
電力実験	2					2	
電子通信実験	2					2	
電気電子実践演習Ⅰ	1	1					
電気電子実践演習Ⅱ	2		2				
卒業研究	8					8	
必修科目修得小計	89	6	10	19	29	25	
短期インターンシップ	1				1		
電気電子工学演習	1					1	
信頼性工学	1					1	
システム工学	1					1	
電気電子工学概論	1				1	1	4年編入生のみ履修可
産業デザイン論	1					1	
選択科目修得小計	0						
専門科目修得合計	89	6	10	19	29	25	
修得単位数総計							
一般	必修科目	75	28	26	16	3	2
一般	選択科目	3				3	以上
一般	小計	78	28	26	16	8	以上
専門	必修科目	89	6	10	19	29	25
専門	選択科目	0					
専門	小計	89	6	10	19	29	25
	総修得単位数	167	34	36	35	62	以上

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、九州工業大学工学部、熊本大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、広島大学工学部、佐賀大学理工学部、鹿児島大学工学部、電気通信大学情報理工学部、岡山大学工学部、東北大学工学部、関西大学理工学部、福岡大学理学部

(2) 就職先

九州電力(株)、アイシン精機(株)、大分キヤノン(株)、西部ガス(株)、関西電力(株)、東海旅客鉄道(株)、ソニーセミコンダクタ(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)小松製作所、(株)明電舎、コニカミノルタビジネスソリューションズ(株)、NSウエスト(株)、(株)JALエンジニアリング、第一精工(株)、中部電力(株)、東芝メディカルシステムズ(株)、江崎グリコ(株)、宇宙航空研究開発機構

制御情報工学科

1. 概略

半導体の驚異的な性能向上により、パソコンのみならず、自動車・電化製品を初めとするあらゆる製品にコンピュータが組み込まれています。

制御情報工学科では、このような情報化社会に対応すべく、コンピュータを用いた機械や電子機器(例えばロボット、デジタルカメラ、全自動洗濯機)を制御するメカトロニクス技術および情報工学の専門知識を修得する教育課程を設けています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

(2) 教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目 (青字は専攻科)
綾部 隆	教授	工学博士	機械力学	制御情報工学概論、情報処理基礎、機構学、工業力学、数値計算法Ⅰ、数値計算法Ⅱ、ロボット工学、メカトロニクス工学
丸山 延康	教授 / 学科長	博士(工学)	映像符号化	プログラミングⅢ、オブジェクト指向プログラミング、確率統計、データ構造とアルゴリズム、短期インターンシップ、計算機システム、オペレーティングシステム、マルチメディア工学、情報通信実験、創造工学実験、制御情報工学特論、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
江崎 昇二	教授	修士(工学)	制御工学	加工実習、シーケンス制御、計測工学、制御工学Ⅰ、創造プログラミング演習、制御工学Ⅱ、制御工学実験
江頭 成人	教授	博士(工学)	制御工学	電気回路、電気機器、パワーエレクトロニクス、電気電子工学実験、制御工学実験、デジタル制御、システム制御工学、先端工学特論、制御情報工学特論、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
小田 幹雄	教授	博士(工学)	知能情報工学	論理回路、電気回路Ⅱ、デジタル回路設計、通信工学、計算機アーキテクチャ、デジタル通信、形式言語とオートマトン、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
黒木 祥光	教授	博士(工学)	画像処理	応用数学Ⅰ、創造プログラミング演習、情報理論、信号処理、情報通信実験、画像工学、コンピュータグラフィックス、技術英語、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
熊丸 憲男	准教授	博士(教育学)	工学教育	情報セキュリティ、電子計算機基礎、情報工学実験、電子情報実験、短期インターンシップ、創造工学実験
中野 明	准教授	博士(情報工学)	教育工学	プログラミングⅡ、データベース基礎、情報工学実験、ソフトウェア工学、コンパイラ、情報通信実験、データベース
松島 宏典	准教授	博士(工学)	高度道路交通システム	加工実習、計算機ネットワーク、応用数学Ⅱ、離散数学、創造プログラミング演習、応用情報処理、パターン認識、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
堺 研一郎	助教	博士(工学)	スピントロニクス	電磁気学、電気回路Ⅰ、電子情報実験、半導体材料工学、電気電子工学実験
田中 諒	助教	博士(工学)	システム制御理論	情報処理基礎、プログラミングⅠ、製図、CAD 演習
全員が担当することを基本とする授業科目				制御情報工学概論、卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	本務
松永 崇	熱工学、流体工学	久留米工業高等専門学校 名誉教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
論理回路設計用パーソナルコンピュータ、FPGA 開発ボード等		25 式	メカトロニクスデザイン室
演習用パーソナルコンピュータ、ロボットキット、三次元CAD等		50 式	制御情報実験室
オシロスコープ、FFT アナライザ、トランジスタ実験装置、マイクロコンピュータ実験装置等		数台	電気電子機器実験室
産業用ロボット Performer	MK-3S((株)八幡精工製)	1 式	システム制御実験室
マシニングセンタ、三次元CAD、三次元CAM等	D433,SOLIDWORKS,VisualMill	各1式	CAD/CAM 実験室
画像処理による運動解析システム		1 式	
GPU による並列計算用サーバ		2 台	力学シミュレーション実験室、画像処理実験室

5. 教育課程 (専門科目)

授業科目	単位数	学年別配当					備考	授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年				1年	2年	3年	4年	5年	
専門共通基礎	制御情報工学概論	1	1					情報セキュリティ	1			1			
	化学実験	2	2					データベース基礎	1			1			
	応用物理Ⅰ	2		2				情報工学実験	2			2			
	応用物理Ⅱ	2		2				創造プログラミング演習	1			1			
	応用物理実験	2		2				電子情報実験	2			2			
	確率統計	1			1			情報理論	2				2	学修単位	
	応用数学Ⅰ	2			2			離散数学	2			2			
	応用数学Ⅱ	1			1			数値計算法Ⅰ	1			1			
	製図	1	1					数値計算法Ⅱ	1				1		
	加工実習	2	2					データ構造とアルゴリズム	1			1			
メカトロニクス	機構学	1	1					計算機システム	1			1			
	シーケンス制御	1		1				オペレーティングシステム	1			1			
	電磁気学	2			2			デジタル回路設計	1			1			
	電子回路	2			2			コンパイラ	1			1			
	電気回路Ⅰ	2		2				ソフトウェア工学	1			1			
	電気回路Ⅱ	1			1			計算機アーキテクチャ	2			2			
	電気機器	1			1			信号処理	1			1			
	CAD 演習	1		1				通信工学	1			1			
	材料力学	1			1			マルチメディア工学	1			1			
	工業力学	1			1			デジタル通信	1			1			
必修科目	ロボット工学	2			2			情報通信実験	2			2			
	計測工学	1			1			卒業研究	7			7			
	制御工学Ⅰ	2			2			必修科目修得小計	89	4	8	18	29	30	
	制御工学Ⅱ	1			1			Ⅰ群 短期インターンシップ	1			1		0単位以上修得	
	制御工学実験	2			2			Ⅰ群 産業デザイン論	1			1			
	パワーエレクトロニクス	1			1			Ⅱ群 制御情報工学基礎 A	1			1		4年編入生のみ履修可	
	電気電子工学実験	2			2			Ⅱ群 制御情報工学基礎 B	1			1			
	半導体材料工学	1			1			選択科目修得小計	0			0	以上		
	流体力学	1			1			専門科目修得合計	89	4	8	18	59	以上	
	熱工学	1			1										
情報系	情報処理基礎	2	2					修得単位数総計							
	プログラミングⅠ	1	1					一般 必修科目	75	28	26	16	3	2	
	プログラミングⅡ	2	2					一般 選択科目	3				3	以上	
	プログラミングⅢ	1		1				小計	78	28	26	16	8	以上	
	オブジェクト指向プログラミング	1		1				専門 必修科目	89	4	8	18	29	30	
	電子計算機基礎	2		2				専門 選択科目	0				0	以上	
	論理回路	2		2				小計	89	4	8	18	59	以上	
	計算機ネットワーク	1		1				総修得単位数	167	32	34	34	67	以上	

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、九州大学理学部、九州大学経済学部、九州工業大学情報工学部、佐賀大学工学部、東京大学工学部、大阪大学基礎工学部、東京工業大学工学部、横浜国立大学理工学部、筑波大学情報学群、千葉大学工学部、大阪大学工学部

(2) 就職先

セイコーエプソン(株)、(株)日立製作所、富士通(株)、九州電力(株)、関西電力(株)、TOWA(株)、NSウエスト(株)、(株)トヨタプロダクションエンジニアリング、(株)朝日プリンテック、三菱電機ビルテクノサービス(株)、富士通ネットワークソリューションズ(株)、富士ゼロックス福岡(株)、(株)イシモク・コーポレーション、(株)三松、大電(株)、(株)創世エンジニアリング、富士重工業(株)、(株)明電舎

生物応用化学科

1. 概略

生物応用化学科は、以下の教育目的・目標の下、主に化学、生物学、技術者素養に関する教育を行っています。低学年において基礎科目を幅広く学習し、4年次から応用化学コースと生物化学コースに別れ専門的に学ぶことができることが本学科の特徴と言えます。

卒業生の半数は本科卒業後に就職し、主に総合化学工業、医療器・医薬品工業、食品工業で活躍しています。残り半数は、(国立)大学へ編入学または専攻科へ進学し、さらに高度な科目を継続して学習します。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

(2) 教育目標

化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

3. 教員

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目 (青字は専攻科)
津田 祐輔	教授	博士 (工学)	高分子化学・材料	高分子化学Ⅰ、機能有機材料、ポリマー製造工学、ポリマー加工技術、応用化学実験、有機化学実験、機能有機材料特論、有機構造化学、先端工学特論、創造工学実験、専攻科インターンシップ、専攻科研究論文
富岡 寛治	教授	博士 (工学)	生物工学	2年間新居浜高専
中島 裕之	教授	博士 (農学)	生化学	生物学Ⅰ、生物学Ⅱ、微生物学、遺伝子・細胞工学、基礎生物化学実験、生物化学実験、生物工学実験、生体機能分子学、分子生物学、専攻科研究論文
辻 豊	教授	博士 (理学)	有機化学	化学Ⅰ、有機合成化学、創造化学実験、物性化学
梶 隆彦	教授/学部長	博士 (工学)	反応工学	物理化学Ⅰ、物理化学Ⅱ、酵素・生物反応工学、化学工学Ⅱ、創造化学実験、物化・化工実験、応用化学実験、応用物理化学
石井 努	教授	博士 (工学)	機能有機化学	酸塩基化学、有機金属化学、工業物理化学Ⅰ、機器分析、短期インターンシップ、分析化学実験、有機化学実験、応用化学実験、有機反応化学、専攻科研究基礎
笈木 宏和	准教授	博士 (農学)	微生物工学	情報化学Ⅰ、情報化学Ⅱ、代謝工学、生物有機化学、バイオプロセス工学、基礎生物化学実験、生物化学実験、生物工学実験、生体物質化学、専攻科研究論文
松山 清	准教授	博士 (工学)	化学工学	情報化学Ⅱ、化学工学Ⅰ、化学工学概論、工業物理化学Ⅱ、産業財産権入門、創造化学実験、応用化学実験、物化・化工実験、化学工学特論、専攻科研究基礎
渡邊 勝宏	准教授	博士 (工学)	高分子化学	化学Ⅱ、基礎有機化学Ⅰ、基礎有機化学Ⅱ、有機化学Ⅰ、高分子化学Ⅱ、分析化学実験、有機化学実験、応用化学実験、高分子材料特論、専攻科研究基礎
松田 貴暁	准教授	博士 (工学)	応用化学	基礎溶液化学、化学平衡論、有機化学Ⅱ、錯体化学、無機化学、高分子材料学、有機化学実験、生物工学実験、物化・化工実験
萩原 義徳	准教授	博士 (理学)	構造生物学	生物学Ⅰ、生物学Ⅱ、情報化学Ⅰ、遺伝子・細胞工学、酵素構造工学、基礎生物化学実験、生物化学実験、生物工学実験、技術英語、専攻科研究基礎
中島めぐみ	助教	修士 (医科学)	心身医学	専門基礎 (生物応用化学)、生物有機化学、情報処理演習、バイオプロダクト、創造化学実験、生物化学実験、生物工学実験、物化・化工実験、地球環境と現代生物学
全員が担当することを基本とする授業科目				生物応用化学入門、科学技術史、卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	本務
ポール マップフェー ジョン ミーイン	工業英語	語学学校経営
一政 遼太郎	基礎無機化学	九州大学院数理学府博士後期課程
原 信海	産業財産権入門	原特許事務所 所長
元村 直行	産業財産権入門	福岡県知的所有権センター 特許流通コーディネーター
辻井 洋行	工業倫理	北九州市立大学 基盤教育センターひびきの分室 准教授
田中 久	品質管理	佐賀県計量協会 専務理事
濱田 悦郎	安全工学	JNC 株式会社水俣製造所 安全衛生担当次席
西尾 浩照	安全工学	JNC 株式会社水俣製造所 環境安全品質部長
田代 博之	応用数学	久留米工業大学工学部 教授
竹下 道範	環境工学	佐賀大学院工学系研究科 先端融合工学専攻 准教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
核磁気共鳴装置	JEOL 500MHzFT NMR	1 式	総合試作技術教育センター
紫外・可視分光光度計	JASCO V670,V640 他	1 式	総合試作技術教育センター
HPLC システム	Shimadzu 他	1 式	生物化学工学実験室
生物観察用顕微鏡	KEYENCE BZ-9000 他	1 式	機器分析室
ゴム材料分析装置	キュラストメーター他	1 式	ケミカルエンジニアリング・エラストマー研究室

5. 教育課程 (専門科目)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
生物学Ⅱ	2		2				
基礎無機化学	1			1			
酸塩基化学	1			1			
基礎有機化学Ⅰ	1		1				
基礎有機化学Ⅱ	1			1			
物理化学Ⅰ	1			1			
物理化学Ⅱ	1				1		
無機化学	1				1		
錯体化学	1				1		
有機化学Ⅰ	1			1			
高分子化学Ⅰ	1				1		
有機金属化学	1				1		
有機化学Ⅱ	1				1		
有機合成化学	1				1		
高分子化学Ⅱ	1				1		
ポリマー製造工学	2				2	学修単位	
機能有機材料	1				1		
ポリマー加工技術	2				2	学修単位	
応用化学実験	3				3		
生物有機化学	2				2		
遺伝子・細胞工学	2				2		
バイオプロセス工学	2				2	学修単位	
酵素・生物反応工学	2				2	学修単位	
代謝工学	1				1		
生物学実験	3				3		
化学製図	1		1				
化学工学Ⅰ	2				2		
化学工学Ⅱ	2				2		
機器分析	2				2		
工業物理化学Ⅰ	1				1		
工業物理化学Ⅱ	1				1		
バイオロダクト	2				2	学修単位	
機械工学概論	1				1		
基礎溶液化学	1		1				
化学平衡論	1		1				
微生物学	1			1			
酵素構造工学	1			1			
応用数学	2				2		

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
応用物理Ⅰ	2				2		
応用物理Ⅱ	2				2		
応用物理実験	2				2		
環境工学	1					1	
情報化学Ⅰ	2		2				
情報化学Ⅱ	2			2			
情報処理演習	2				2		
創造化学実験	2	2					
分析化学実験	2		2				
基礎生物化学実験	2		2				
有機化学実験	3			3			
生物化学実験	3			3			
物化・化工実験	3				3		
生物応用化学入門	1	1					
工業倫理	1			1			
品質管理	1				1		
安全工学	1				1		
産業財産権入門	2					2	学修単位
卒業研究	11					11	
工業英語	1					1	
必修科目修得小計	88	3	12	22	26	25	
生物応用化学概論	1				1		1単位以上(生物応用化学概論は編入生のみ履修可)
科学技術史	1				1	(1)	
短期インターンシップ	1				1		
産業デザイン論	1				1		
選択科目修得小計	1				1	以上	
専門科目修得合計	89	3	12	22	52	以上	

修得単位数総計							
必修科目	75	29	25	16	3	2	
一般選択科目	3				3	以上	
小計	78	29	25	16	8	以上	
必修科目	88	3	12	22	26	25	
専門選択科目	1				1	以上	
小計	89	3	12	22	52	以上	
総修得単位数	167	32	37	38	60	以上	

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、東京工業大学(生命理工学部、工学部)、名古屋大学工学部、東北大学理学部、神戸大学(理学部、農学部)、広島大学(工学部、生物生産学部)、横浜国立大学理工学部、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

(2) 就職先

武田薬品工業(株)、ニプロ(株)、麒麟麦酒(株)、日東電工(株)、東レ(株)、塩野義製薬(株)、(株)明治、森永乳業(株)、昭栄化学工業(株)、中外製薬(株)、大正製薬(株)、花王(株)、小川香料(株)、(株)資生堂、京セラ(株)、沢井製薬(株)、味の素(株)、協和発酵バイオ(株)、JXTG(株)、旭化成(株)、DIC(株)、JNC(株)第一三共プロファーマ(株)、和光純薬(株)、住友精化(株)、宇部興産(株)、独立行政法人国立印刷局、アステラスファーマテック(株)、旭硝子(株)、昭和電工(株)、(株)日本触媒

材料システム工学科

1. 概略

材料システム工学科は、以下の教育目的・目標の下、私たちの生活を支える優れた製品を創り出すために、その基礎となる材料の知識や技術を修得するための教育、それらの知見に基づいた新しい材料や機能性を高めた材料を開発するための研究を行っています。

この学科を卒業する学生には、将来のものづくりを支える技術者になって欲しいと願い、実験・実習を多く取り入れた実践的な教育を進めています。材料工学を学ぶことができる高専は、全国には4高専しかなく、このことは本学科の特徴となっています。卒業生は、主に鉄鋼・非鉄等の素材メーカーをはじめ、機械、輸送機器、電機、エネルギー等の産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

(2) 教育目標

- 金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。
 - ・構造、性質、機能
 - ・製造プロセス、加工、リサイクルに関する技術
 - ・設計、解析、評価
 - ・材料工学に関連した周辺知識

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目(青字は専攻科)
奥山 哲也	教授	工学博士	固体物理	情報処理Ⅰ、電気電子材料、材料物性学Ⅰ、結晶構造解析、材料物性学Ⅱ、材料物性実験、半導体材料、先端工学特論、専攻科インターンシップ、創造工学実験、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
川上 雄士	教授/学科長	博士(工学)	金属物理	機械材料学、金属物理学Ⅱ、材料工学演習、金属材料学Ⅱ、金属熱処理論、材料加工実習、材料組織実験、材料物性実験、構造材料学、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
森園 靖浩	教授	博士(工学)	材料組織・界面制御	材料組織学、金属材料学Ⅰ、材料加工実験、技術英語、専攻科研究基礎
矢野 正明	准教授	博士(工学)	電気化学	物理化学Ⅰ、電気化学Ⅰ、電気化学Ⅱ、環境工学、材料化学実験、材料評価実験、表面処理工学
山本 郁	准教授	博士(工学)	材料組織制御	基礎設計製図、材料力学、塑性加工学、材料評価実験、材料組織制御、専攻科インターンシップ、創造工学実験、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
岩田 憲幸	准教授	博士(工学)	材料化学	基礎材料化学、セラミックス材料学Ⅰ、セラミックス材料学Ⅱ、材料機器分析実験、材料加工実験、機能性無機材料学、専攻科研究基礎
周致 靈	准教授	博士(工学)	構造材料物性学	金属物理学Ⅰ、情報処理Ⅰ、情報処理Ⅱ、材料評価学、材料加工実習、材料組織実験、高温強度学、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
清長 友和	助教	博士(工学)	材料化学	材料化学Ⅰ、物理化学Ⅱ、材料化学実験、材料加工実験
小袋 由貴	助教	博士(工学)	材料化学	材料化学Ⅱ、材料機器分析実験、応用情報処理演習、専攻科研究基礎
笹栗 信也	特任教授	博士(工学)	金属加工学	融体加工学、材料加工実験、接合工学、材料強度学
馬越 幹男	嘱託教授		材料化学	材料工学演習、材料合成プロセス、機能材料、材料化学実験、材料加工実験
全員が担当することを基本とする授業科目				材料システム工学入門、工業英語、短期インターンシップ、卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	本務
田中 久	品質管理	佐賀県計量協会 専務理事
中島 輝国	材料工学設計製図	中島設計 代表者
原田 哲夫	数学ⅡB・ⅢA、応用数学Ⅰ	予備校講師
田代 博之	応用数学、応用数学Ⅱ・Ⅲ	久留米工業大学工学部 教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
走査型電子顕微鏡	エリオニクス ERA-8900FE	1式	総合試作技術教育センター
X線回折分析装置	PANalytical EMPYREAN システム	1式	総合試作技術教育センター
ICP発光分光分析装置	日立ハイテクサイエンス SPS3520V-DD-OPシーケンシャル型	1式	総合試作技術教育センター
走査型X線光電子分光分析装置	アルバック・ファイ Quanterra II	1式	総合試作技術教育センター
高温引張試験装置	島津 AG-100kNXplus	1式	材料組織制御研究室

5. 教育課程（専門科目）

授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考	授 業 科 目	単 位 数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年				1年	2年	3年	4年	5年	
材料システム工学入門	2	2						化学実験	2	2					
情報処理Ⅰ	2		2					材料機器分析実験	2	2					
情報処理Ⅱ	1				1			応用物理実験	2		2				
応用数学Ⅰ	2				2			必修 材料化学実験	3			3			
応用数学Ⅱ	1				1			材料組織実験	2		2				
応用数学Ⅲ	1					1		材料物性実験	3			3			
応用物理Ⅰ	2			2				材料加工実験	3				3		
応用物理Ⅱ	2			2				材料評価実験	3				3		
材料加工実習	3	3						卒業研究	8					8	
図学	1	1						必修科目修得小計	86	6	9	19	27	25	
基礎設計製図	1		1					材料工学概論	1				1		4年編入生のみ履修可
応用設計製図・CAE	2				2			短期インターンシップ	1				1		
電気・電子工学概論	1				1			接合工学	1					1	
機械加工学	1			1				金属熱処理論	1					1	3単位以上修得
基礎材料化学	2		2					品質工学	1					1	
セラミックス材料学Ⅰ	1			1				複合材料	1					1	
セラミックス材料学Ⅱ	1				1			選択科目修得小計	3					3以上	
必修 材料化学Ⅰ	2			2				専門科目修得合計	89	6	9	19	55	以上	
材料化学Ⅱ	2			2				修得単位数総計							
物理化学Ⅰ	2			2				一般 必修科目	75	28	26	16	3	2	
物理化学Ⅱ	2			2				一般 選択科目	3					3以上	
高分子材料学	1				1			小計	78	28	26	16	8	以上	
電気化学Ⅰ	1				1			専門 必修科目	86	6	9	19	27	25	
電気化学Ⅱ	1				1			専門 選択科目	3					3以上	
環境工学	1				1			小計	89	6	9	19	55	以上	
金属物理学Ⅰ	2			2				総修得単位数	167	34	35	35	63	以上	
金属物理学Ⅱ	1				1										
材料物性学Ⅰ	1				1										
材料物性学Ⅱ	2				2										
材料力学	2			2											
塑性加工学	2			2											
材料組織学	1			1											
材料強度学	2				2		学修単位								
金属材料学Ⅰ	2			2											
金属材料学Ⅱ	1				1										
融体加工学	1				1										
材料評価学	1				1										
工業英語	2				2		学修単位								

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、東北大学工学部、熊本大学工学部、九州工業大学工学部、佐賀大学理工学部、愛媛大学工学部、室蘭工業大学工学部、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

(2) 就職先

新日鐵住金(株)、田中貴金属グループ、宇部興産(株)、高周波熱錬(株)、旭化成グループ、東レ(株)、東洋鋼鈑(株)、NOKグループ、ヤマハ発動機(株)、京セラ(株)、三菱重工(株)、矢崎総業(株)、東伸熱工(株)、(株)東研サーモテック、DOWAサーモエンジニアリング(株)、日本精工(株)、ソニーセミコンダクタ(株)、(株)アーレスティ

専攻科

1. 概略

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導するために置かれる組織です。

本校は、高等専門学校卒業生に対して、継続性のあるより高度な技術者教育を行うことを目的として、平成5年に九州で初めて専攻科を設置しました。

本校専攻科は、修業年限2年の機械・電気システム工学専攻（3コース）及び物質工学専攻（2コース）から成り、更に高度な専門知識を追求するだけではなく、充実した実験、研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

なお、本校専攻科の修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、同機構が通常課している試験を受験することなく学士号を授与されます。



2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

本校の専攻科課程における教育目的は、次のような実践的、創造的技術者を育成することとする。

- ①先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
- ②創造的研究開発能力を持った技術者
- ③国際化に対応できる技術者

(2) 教育目標

①機械工学コース

ア 技術者倫理

(ア) 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。

(イ) 技術者倫理に対しその責任を理解できる。

(ウ) 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。

イ 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力

(ア) 数学に関する知識を専門分野に応用できる。

(イ) 物理に関する知識を専門分野に応用できる。

(ウ) 情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。

ウ 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成

(ア) 材料と強度に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。

(イ) 機械設計に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。

(ウ) 生産工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。

(エ) 熱・流体工学に関する専門知識を習得し、職業

- 上応用できる基礎能力を身に付ける。
- (オ) 制御・情報技術に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- エ 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得
- (ア) 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
- (イ) 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- オ 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- カ 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- キ 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション
- (ア) 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
- (イ) 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- ク 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。
- ②電気電子工学コース
- ア 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
- (ア) 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
- (イ) 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に活用できる。
- イ 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
- (ア) ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
- (イ) ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に活用できる。
- ウ もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
- (ア) 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
- (イ) 実験データを解析、考察し説明できる。
- (ウ) 共同で実験・演習を遂行できる。
- エ 電気電子技術の基礎となる学力の修得
- (ア) 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
- (イ) 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- オ 技術に関するコミュニケーション能力の育成
- (ア) 分かりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
- (イ) 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- カ 技術者倫理感覚の育成
- (ア) 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
- (イ) 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- キ 企画・管理能力の育成
- (ア) 産業や社会との連携活動や実験・実習の中から

- 技術的な課題を見出すことができる。
- (イ) 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。
- ③制御情報工学コース
- ア 技術者としての広い視野と倫理観
- (ア) 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
- (イ) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。
- イ 基礎工学の知識と応用力
- (ア) 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
- (イ) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- ウ 専門工学の知識と応用力
- (ア) 制御、情報及びこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
- (イ) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
- (ウ) 前(ア)の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- エ デザイン力
- 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- オ コミュニケーション力
- (ア) 日本語での自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
- (イ) 英語による基礎的なコミュニケーションができる。
- カ 実践力
- (ア) 他者と協力して課題に取り組むことができる。
- (イ) 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
- (ウ) 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。
- ④生物応用化学コース
- ア 技術者倫理と多面的視野
- (ア) 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
- (イ) 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- イ 生物応用化学基礎と工学基礎
- (ア) 生物及び化学に関する基礎知識を習得する。
- (イ) 物理、数学及び情報技術を工学に応用できる。
- ウ 生物応用化学の専門知識と応用力
- (ア) 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識及び両分野に共通して必要な専門知識を習得し、それらを当該工業分野に応用することができる。
- (イ) 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術及び

- らを種々の問題解決に応用することができる。
- エ 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- オ 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- カ 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- キ 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。
- ⑤材料工学コース
- ア 自然科学及び情報処理技術に関する知識
- (ア) 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識とその応用力を身に付ける。
- (イ) 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応させる能力を身に付ける。
- イ 材料に関する基礎知識と応用力
- (ア) 材料、特に金属及びセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付ける。
- (イ) 材料、特に金属及びセラミックス材料の製造プ

- ロセスについての基礎知識を身に付ける。
- (ウ) 材料に関する基礎知識を工学問題の解決に活用できる能力を身に付ける。
- ウ 工学的な基礎原理・現象の理解能力
- エ 調査及び実行能力
- (ア) 課題に対して自主的に調査する能力を身に付ける。
- (イ) 計画性を持って物事に取組み、実行する能力を身に付ける。
- (ウ) 課題の結果を間違いの少ない文章及び口頭で表現し、討論できる能力を身に付ける。
- オ 異文化理解とコミュニケーション能力
- (ア) 英語により材料工学に関する基本的なコミュニケーションができる。
- カ 多面的視野と技術者倫理
- (ア) 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考える能力を身に付ける。
- (イ) 技術者の社会的責任を自覚する能力を身に付ける。
- キ 地域産業での実務経験
- (ア) インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

3. 教育課程

(1) 各専攻・コース共通

	授業科目	授業形態	単位	学年別配当		備考
				1年次	2年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	演習	1	1	
		実践英語Ⅱ	演習	1	1	
		実践英語Ⅲ	演習	2		2
		環境倫理学	講義	2	2	
		工学倫理	講義	2		2
	一般科目必修単位計			8	4	4
	選択	産業財産権特論	講義	2	2	
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2	2	
		専攻科特論一般Ⅱ	講義又は演習	2		2
		一般科目選択単位計			6	4
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2	
		現代物理学	講義	2	2	
		応用情報処理演習	演習	2	2	
		専門基礎科目必修単位小計			6	6
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2	
		応用数理Ⅱ	講義	2	2	
		応用数理Ⅲ	講義	2		2
		量子力学	講義	2	2	
		物性化学	講義	2	2	
		画像工学	講義	2	2	
		応用情報処理	講義	2	2	
		統計力学及び熱力学	講義	2		2
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2
専門基礎科目選択開設単位小計			20	12	8	
専門基礎科目開設単位計			26	18	8	
一般科目、専門基礎科目開設単位合計			40	26	14	

(2) 機械・電気システム工学専攻

授業科目	授業形態	単位数	学年別配当		備考
			1年次	2年次	
創造工学実験	実験	2	2		
技術英語	演習	1		1	
先端工学特論	演習	1	1		
専攻科研究基礎	実験	5	5		
専攻科研究論文	実験	10		10	学修総まとめ科目
専門科目必修単位小計		19	8	11	
弾塑性力学	講義	2	2		A * *
破壊力学	講義	2	2		A * *
応用流体力学	講義	2	2		A * *
生産加工学	講義	2		2	A * *
移動現象論	講義	2	2		A * *
計算力学	講義	2		2	A S *
設計システム工学	講義	2	2		A * E
メカトロニクス工学	講義	2		2	A S E
システム制御工学	講義	2	2		A S E
デジタル制御	講義	2	2		A S E
トライボロジー解析学	講義	2		2	A * *
コンピュータグラフィックス	講義	2		2	* S *
パターン認識	講義	2		2	* S *
形式言語とオートマトン	講義	2	2		* S E
データベース	講義	2	2		* S *
コンピュータサイエンス	講義	2		2	* S E
応用電磁気学	講義	2	2		* S E
光エレクトロニクス	講義	2		2	* * E
集積回路工学	講義	2	2		* * E
デジタル信号処理	講義	2	2		* S E
プラズマ工学	講義	2		2	* * E
機械工学特論	講義	2	2		集中講義
電気電子工学特論	講義	2	2		集中講義
制御情報工学特論	講義	2	2		集中講義
専攻科インターンシップ	実習	2	2		A S E
専門科目選択開設単位小計		50	32	18	ASEの各区分30単位から14単位以上、修得のこと。
専門科目開設単位計		69	40	29	
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		109	66	43	
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		63単位以上			
全開設単位合計 (機械工学系)		89	56	33	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)
全開設単位合計 (制御情報系)		89	54	35	
全開設単位合計 (電気電子系)		89	56	33	

※ A は機械工学系、S は制御情報系、E は電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

授業科目	授業形態	単位数	学年別配当		備考
			1年次	2年次	
創造工学実験	実験	2	2		
技術英語	演習	1		1	
先端工学特論	演習	1	1		
専攻科研究基礎	実験	5	5		
専攻科研究論文	実験	10		10	学修総まとめ科目
専門科目必修単位小計		19	8	11	
有機反応化学	講義	2	2		C *
有機構造化学	講義	2		2	C *
生体機能分子学	講義	2	2		C *
生体物質化学	講義	2	2		C *
化学工学特論	講義	2		2	C *
機能性有機材料特論	講義	2	2		C *
分子生物学	講義	2		2	C *
高分子材料特論	講義	2	2		C M
応用物理化学	講義	2		2	C M
機能性無機材料学	講義	2	2		C M
半導体材料	講義	2	2		* M
材料組織制御	講義	2		2	* M
構造材料学	講義	2	2		* M
腐食防食工学	講義	2	2		* M
材料強度学	講義	2	2		* M
表面処理工学	講義	2	2		* M
高温強度学	講義	2		2	* M
生物応用化学特論	講義	2	2		集中講義
材料工学特論	講義	2	2		集中講義
専攻科インターンシップ	実習	2	2		C M
専門科目選択開設単位小計		40	28	12	C及びMともそれぞれ26単位中14単位以上修得のこと。
専門科目開設単位計		59	36	23	
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		99	62	37	
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)		63単位以上			
開設単位合計 (生物応用化学系)		85	52	33	備考欄の*は他専攻扱いの科目(4単位以内)
開設単位合計 (材料工学系)		85	54	31	

※ C は生物応用化学系、M は材料工学系の履修科目を示す。

4. 大学との協定

締結先	内容	締結年月日	終了年月日
久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛女学院短期大学、聖マリア学院大学	単位互換	平成 16 年 6 月 28 日	平成 30 年 3 月 31 日
久留米工業大学、久留米大学、聖マリア学院大学、久留米信愛女学院短期大学	高等教育コンソーシアム久留米の設置	平成 21 年 12 月 17 日	無期限
早稲田大学大学院情報生産システム研究科	推薦入学	平成 23 年 4 月 1 日	平成 33 年 3 月 31 日
北陸先端科学技術大学院大学	推薦入学	平成 26 年 12 月 2 日	平成 32 年 12 月 1 日

5. 主な進学・就職先

(1) 進学先

九州大学大学院(総合理工学府、工学府、システム生命科学府)、九州工業大学大学院情報工学府、東京工業大学大学院(総合理工学府)、大阪大学大学院(工学研究科)、筑波大学大学院(システム情報工学研究科) 北九州大学大学院(国際環境工学研究科)、北陸先端科学技術大学院大学、早稲田大学大学院、奈良先端科学技術大学院

(2) 就職先

中外製薬工業(株)、沢井製薬(株)、JSR(株)、三菱重工プラント建設(株)、高周波熱錬(株)、大久保歯車工業(株)、TOWA(株)、三菱重工業(株)、旭化成(株)、(株)資生堂、DIC(株)、日東電工(株)、第一精工(株)、西部技研(株)、昭栄工業(株)、東京エレクトロン九州(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)神戸製鋼所、ダイハツ工業(株)

図書館

1. 概略

本校図書館は、平成24年度の全面改修工事で図書館・総合情報センターになりました。1階の図書館スペースには、グループ学習スペース、個別学習ブース、閲覧室があり、閲覧室内には、図書検索ができるパソコンやDVD等を鑑賞できるAVルームを設置しています。

閲覧室内は工学系専門書、参考書をはじめ、文学作品や人文社会系、語学系と多数の図書を配架しています。また、本校学生・教職員だけでなく、学外の方への利用開放も行っています。



閲覧室内

2. 蔵書等

(1) 蔵書冊数

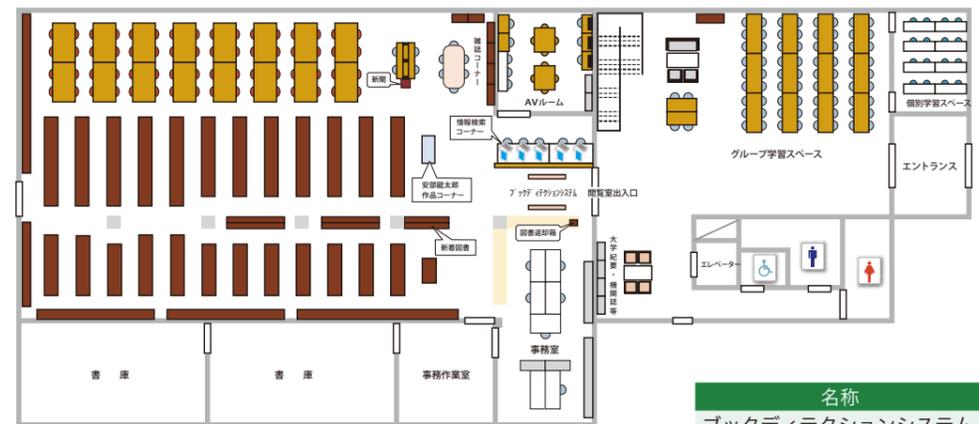
平成 29 年 3 月 31 日現在

分類	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	その他	合計
和書	3,569	5,218	5,820	5,004	17,418	18,164	420	2,530	2,243	10,751	18,230	89,367
洋書	96	21	14	52	2,037	1,430	9	7	940	1,006	294	5,906
合計	3,665	5,239	5,834	5,056	19,455	19,594	429	2,537	3,183	11,757	18,524	95,273

(2) データベース、電子ジャーナル

名称	内容
Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル
AIP	米国物理学協会 (American Institute of Physics) の電子ジャーナル
APS	米国物理学会 (American Physical Society) の電子ジャーナル
JDream III	科学技術振興機構提供 (JOIS の Web 版) データベース
MathSciNet	AMS 製作による、学術論文誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース
ACS	米国化学会 (American Chemical Society) の電子ジャーナル
CiNii	学協会刊行物・大学研究紀要・国会図書館の雑誌記事索引データベース等、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス
Science	アメリカ科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science) の電子ジャーナル
理科年表	1925 以降の理科年表の内容を収録した Web ページ
化学書資料館	日本化学会編集の定評あるレファレンス類がインターネットを通して閲覧できるサービス

3. 主な設備・フロア図



名称	仕様	数量
ブックディテクションシステム	M-3501 5S-1 M-942	1台
図書検索用パソコン	OptiPlex3240 AIO XCTO	3台
視聴覚用 AV 機器	REGZA24B5,DXR160V	3台
	BDP-3120-K	1台

4. 利用状況 (平成 28 年度)

	機械工学科		電気電子工学科		制御情報工学科		生物応用化学科		材料工学科		専攻科		合計		教職員	
	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数
1年	40	68	18	28	33	74	5	6	25	37	224	410	345	623	225	398
2年	124	200	141	263	196	314	200	345	215	384	130	216	1,006	1,722		
3年	65	76	131	182	61	103	90	146	107	185			454	692		
4年	181	306	199	371	306	471	138	257	433	719			1,257	2,124		
5年	140	207	129	265	197	314	111	177	306	546			883	1,509		
合計	550	857	618	1,109	793	1,276	544	931	1,086	1,871	354	626	3,945	6,670	39	64

学生相談室

学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。

学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員(教員)・看護師・カウンセラー・精神科医(必要に応じて来校)で構成されています。カウンセラー及び精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。

学生相談室の活動は Web ページでも確認することができます。学生だけでなく、保護者や担任の先生からの相談も受け付けています。



学生相談室

ものづくり教育センター

ものづくり教育センターは、旧機械電気実験実習棟及び旧機械工作工場の2棟を改修し、平成26年4月から運用を開始しました。

ものをつくる基礎技術をベースに、IT技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者の育成と、産業界への技術的な貢献が可能な施設です。

実習関連施設として、従来の基礎的な実習(木型・鋳造・鍛造・溶接・機械加工・手仕上げ)を行う設備を確保しつつ、新たに3DプリンタやNC工作機械を導入し、IT技術を応用したものづくり教育に対応できる実習環境となっています。



総合情報センター

情報処理教育システム、ネットワークおよび学内情報化に関する業務が旧情報処理センターに一点集中する傾向にあったことから、業務量増大の対応策として平成12年4月に総合情報センターを設置しました。

総合情報センターは「Information」、「Communication」および「Computing」に関連する業務全体の組織的運用を目指しており、情報を積極的に提供あるいは活用して、学内の情報処理を合理的かつ効率的に実行し、教育・研究の支援を行うとともに事務系業務合理化を推進しています。



第1IT演習室(L1教室)

※主な設備等一覧

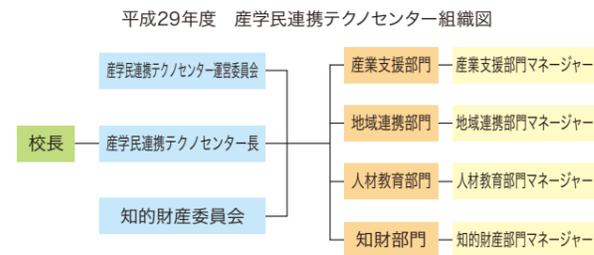
設置場所	設備等	機能等
第1IT演習室(L1教室)	学生用端末機50台、ページプリンタ1台、ネットワーク機器一式	
第2IT演習室(L2教室)	学生用端末機50台、ページプリンタ1台、ネットワーク機器一式	
多目的室(L3教室)	学生用端末機50台、ネットワーク機器一式	各種言語、応用ソフト装備、電子メール、WWW等インターネットサービス
サーバー室	仮想サーバーシステム一式、ファイヤウォール2台、スパム対策サーバー1台、イーサスイッチ、HUB類、事務用サーバー1台、教務システムサーバー2台	キャンパスネットワークを構成、インターネットに対応するソフトウェア(電子メール、WWW等)

産学民連携テクノセンター

本校は、地域社会への貢献を目的として平成12年4月に「産学民連携推進センター」を発足させました。

さらに、地域における産官学民連携活動を推進する拠点として平成22年2月に産学民連携テクノセンター棟の竣工を機に発足したのが「産学民連携テクノセンター」です。

産学民連携テクノセンターは、下図の組織構成により本校の教育研究の発展に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育の進行に資することを目指します。



産学民連携テクノセンター棟

産学民連携テクノセンターのミッション

》地域産業界・民間企業との連携

共同研究等の連携制度により、民間企業等の研究内容、テーマ及びニーズに対応しています。また、テクノネット久留米と連携し、地場産業の高度化、産業力強化のための研究を推進しています。

》地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く開放し、各種公開講座を開設しています。

》初等・中等教育機関との連携

高専の持つ教育資源を活用し、地域の初等中等教育機関への支援を行っています。

》大学・高専などの高等教育機関との連携

高等教育コンソーシアム久留米等との連携を基礎に、フォーラム、講演会、セミナー等を実施しています。

》教育・研究資源の情報発信

本校の刊行物等を通じて研究者の教育・研究資源情報を発信しています。

キャリア支援室

学生の進路指導は、就職主任や5年担任を中心に各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした丁寧な指導や助言を行っています。各学科には進路情報を学生が自由に閲覧、アクセスできる進路指導室、スペースを設けています。さらに学校全体の取り組みとして(1)本科4年時における工場見学旅行や本科及び専攻科インターンシップ、(2)合同企業説明会や企業OB説明会及び大学等の進路説明会、(3)SPI模試や各種講演会や講習会、等を実施しています。

平成29年度より就職を統括していた就職担当委員会を発展させ、「低学年も含む高専生活全体に渡っての、進学も網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的としたキャリア支援室が創設されました。進路選択のさらなるサポートと共に、学生の日々の学習のモチベーションアップ効果も目指しています。



材料システム工学科における進路指導室

学生寮

1. 概略

本校の学生寮は、男子学生のための「筑水寮」と女子学生のための「つつじ寮」の二棟からなります。

筑水寮は、その名を本校の傍を流れる筑後川に由来し、本校の設立当初から続く伝統ある寮です。

また、つつじ寮は2012年に建設され、久留米市の市花「久留米つつじ」から名付けられました。

主にアジア圏からの留学生数名を含め約180名の寮生が生活を共にしています。



筑水寮



つつじ寮

2. 主な仕様

名称	構造	延面積 (㎡)	部屋数 (室)	定員 (名)	付帯設備
筑水寮	R4	3,783	141	210	ルームエアコン
つつじ寮	R3	578	22	30	ルームエアコン
合計		4,361	163	240	オートロック・エコキュート

3. 入寮者数

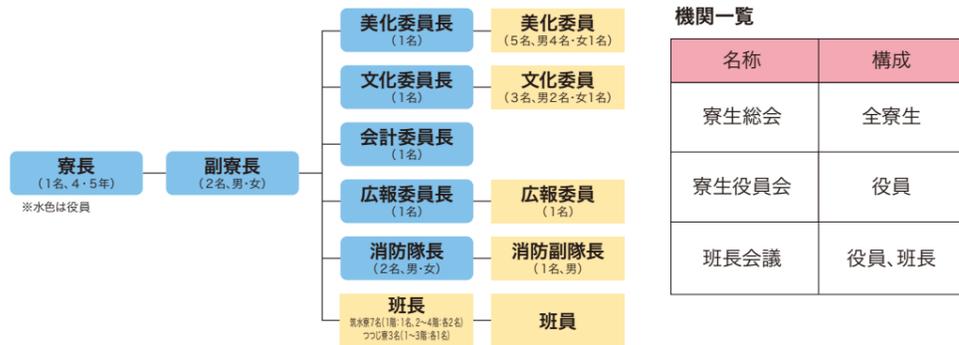
学科・専攻名	区分	1年	2年	3年	4年	5年	その他	計
機械工学科	男	6	8	(留1) 12	(留1) 6	(留1) 12		(留3) 44
	女	1	1	(留1) 1				2
	計	6	9	(留2) 13	(留1) 6	(留1) 12	0	(留3) 46
電気電子工学科	男	4	5	11	3	(留1) 10		(留1) 33
	女			1	(留1) 1			(留1) 2
	計	4	5	12	(留1) 4	(留1) 10	0	(留2) 35
制御情報工学科	男	6	8	3	5	2		24
	女	1	1	3	1			5
	計	7	8	6	6	2	0	29
生物応用化学科	男	4	2	(留1) 10	(留1) 6	(留1) 1		(留3) 23
	女	6	3	3	1			13
	計	10	5	(留1) 13	(留1) 7	(留1) 1	0	(留3) 36
材料工学科	男		1	2	8	4	1	16
	女			2	2	2		6
	計		1	4	10	6	1	22
材料システム工学科	男	3						3
	女	1						1
	計	4						4
小計	男	23	24	(留2) 38	(留2) 28	(留3) 29	1	(留7) 143
	女	8	4	(留1) 10	(留1) 5	2	0	(留2) 29
	計	31	28	(留3) 48	(留3) 33	(留3) 31	1	(留9) 172

学科・専攻名	区分	1年	2年	3年	4年	5年	その他	計
機械・電気システム工学専攻	男	2	3					5
	女							0
	計	2	3					5
物質工学専攻	男		1					0
	女							1
	計	0	1					1
小計	男	2	3					5
	女	1						1
	計	2	4					6
合計	男	25	27	(留2) 38	(留2) 28	(留3) 29	1	(留7) 148
	女	8	5	(留1) 10	(留1) 5	2	0	(留2) 30
	計	33	32	(留3) 48	(留3) 33	(留3) 31	1	(留9) 178

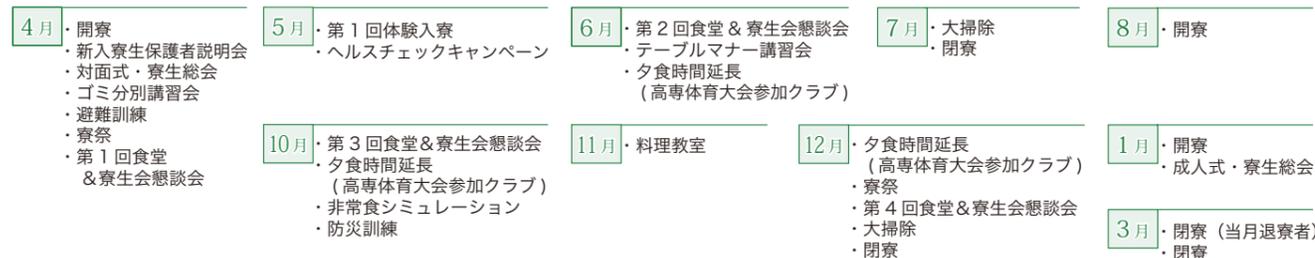
(留) は外国人留学生で内数

4. 寮生会

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む寮生会役員が中心となって行われています。



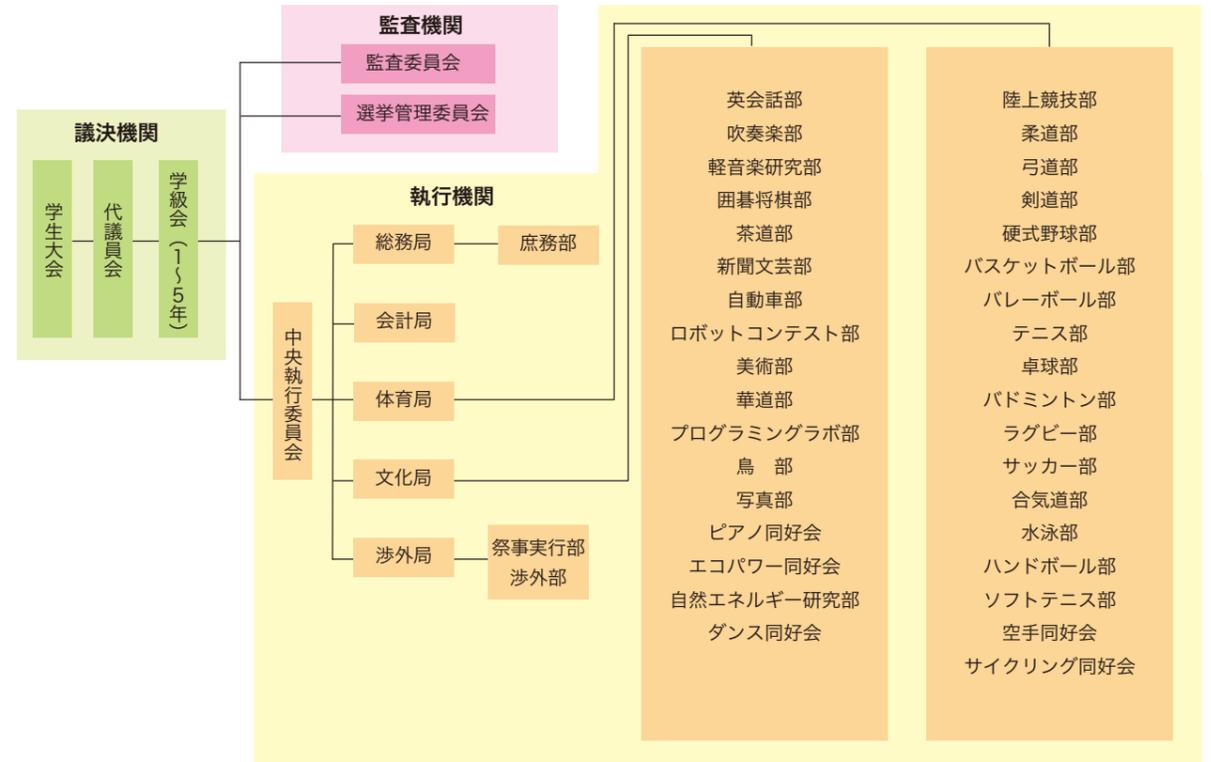
5. 年間行事



学生会

1. 概略

本校学生会は、学生相互の自治活動を通じて相互の調和、学芸の研究及び民主的社會人としての心身の修養に努め、もって学生生活の向上を図ることを目的としており、下図のとおり組織されています。



2. 年間行事 (平成28年度実績)

年月日	行事名
H28.4.13	部活動紹介
H28.4.20	就職支援セミナー
H28.5.11・12	クラスマッチ (11日午後・12日終日)
H28.5.18	学生大会
H28.6.15	ビジネスマナー講習会
H28.6.25	文化部発表会、献血
H28.7.27	校内・地域の清掃活動
H28.11.1 ~ 11.6	高専祭
H28.12.14・15	クラスマッチ (14日午後・15日終日)
H28.12.14	学生大会
H29.1.28	予餞会、献血
H29.3.30	清掃活動

3. クラブ活動の主な実績 (平成28年度)

クラブ名	大会等名	実績
バレーボール部 (女子)	第51回全国高専体育大会 (夏季)	優勝
水泳部	第51回全国高専体育大会 (夏季)	男子400m自由形 第2位 男子800m自由形 第3位
プログラミングラボ部	Hack U2016 第22回スーパーコンピューティングコンテスト(スパコン2016)	最優秀賞 優勝

入学・在学状況

1. 定員・現員

平成29年4月1日現在

学科等	入学定員	総定員	現員											
			1年		2年		3年		4年		5年		計	
本科	200	1000	215	(42)	214	(45)	222	(42)	204	(42)	199	(46)	1054	(217)
機械工学科	40	200	43	(5)	43	(5)	43	(3)	43	(0)	44	(0)	216	(13)
電気電子工学科	40	200	44	(2)	42	(4)	42	(4)	39	(3)	37	(4)	204	(17)
制御情報工学科	40	200	42	(7)	44	(6)	46	(10)	39	(7)	41	(3)	212	(33)
生物応用化学科	40	200	44	(20)	42	(17)	47	(12)	42	(22)	40	(26)	215	(97)
材料工学科	0	160	0		43	(13)	44	(13)	41	(10)	37	(13)	165	(49)
材料システム工学科	40	40	42	(8)	0		0		0		0		42	(8)
専攻科	20	40	32	(5)	31	(4)							63	(9)
機械・電気システム工学専攻	12	24	18	(1)	18	(0)							36	(1)
物質工学専攻	8	16	14	(4)	13	(4)							27	(8)

() は女子で内数
[] は留学生で内数

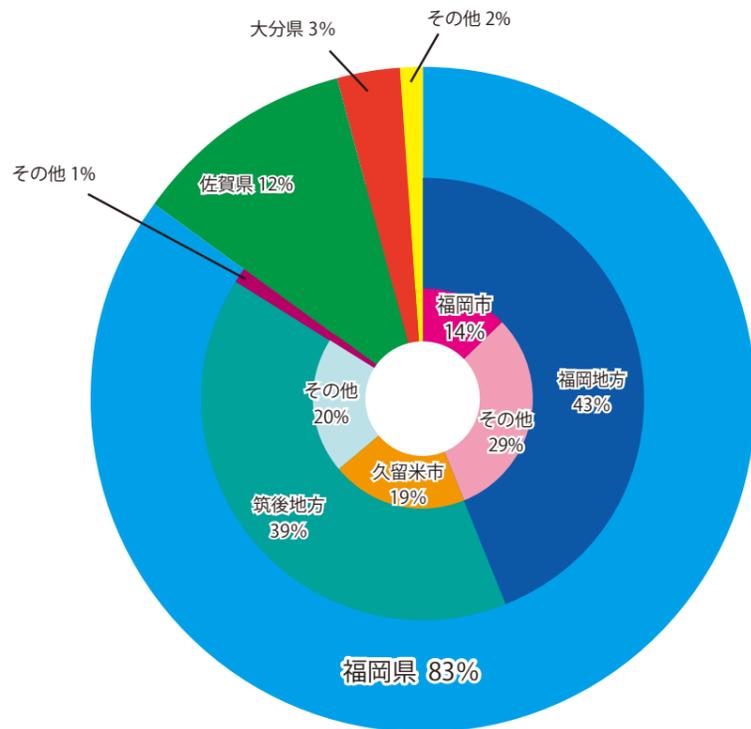
2. 出身地別学生数

平成29年4月1日現在

出身地	学生数
福岡市	156
春日市	50
大野城市	43
朝倉郡	43
朝倉市	41
糟屋郡	40
太宰府市	33
筑紫野市	33
糸島市	17
筑紫郡	14
古賀市	3
福津市	2
小計	475
福岡県	
久留米市	211
小郡市	47
八女市	46
筑後市	36
三潁郡	20
うきは市	18
筑後地方	
大川市	16
柳川市	14
みやま市	11
八女郡	9
三井郡	5
大牟田市	2
小計	435
筑豊地方	
飯塚市	7
嘉麻市	1
小計	8
北九州地方	
北九州市	1
小計	1
合計	919

出身地	学生数	出身地	学生数	出身地	学生数
佐賀県	138	熊本県	4	小計	189
大分県	34	宮崎県	2	総計	1,108
鹿児島県	6	三重県	1		
長崎県	2	愛媛県	1		
		ドイツ	1		

(留学生は除く。)



卒業・修了状況

1. 卒業・修了者数 (平成28年度)

	本科						専攻科		
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
卒業・修了者	37	38(5)	36(3)	33(18)	38(7)	182(33)	20(1)	12(4)	32(5)
就職	19	19(3)	25(3)	24(15)	23(4)	110(25)	6(1)	5(2)	11(3)
進学	15	18(2)	10	9(3)	13(3)	65(8)	13	7(2)	20(2)
その他	3	1	1	0	2	7	1	0	1

() は女子で内数

2. 進学状況 (平成28年度)

進学先	本科						専攻科		
	機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
本校専攻科	6	6	3	5	8	28			
豊橋技術科学大学		6			1	7			
九州大学	1	2		1		4			
九州工業大学	2	1	1		2	6			
佐賀大学	1	1				2			
熊本大学	2				1	3			
鹿児島大学	1	1				2			
大阪大学			1			1			
神戸大学				1		1			
東京工業大学			1	1		2			
筑波大学			4			4			
福岡大学		1				1			
奈良女子大学				1		1			
室蘭工業大学					1	1			
宮崎大学	1					1			
関西大学	1					1			
小計	9	12	7	4	5	37			
合計	15	18	10	9	13	65			

3. 就職状況

本校では、学校推薦での就職が主となっており、その就職活動を円滑かつ細やかに進めるため、各学科に所属している教員1名を就職主任として配置し、担任教員と連携を取りながら、求人对応及び就職指導を行っています。就職主任は担当委員会に出席し、学科間の就職に関する情報の共有、連絡調整を行い、より効果的な支援体制の構築に努めています。

また、毎年本校の体育館にて開催される「九州地区の高専生のための合同会社説明会」への参加、SPI試験の実施、ビジネスマナー講習会及びOB・OGによるキャリア講演会の開催、各刊行物の配布を行うなど、就職意欲を高める情報を提供しています。

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数					就職率 (%)	卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数			就職率 (%)
				九州地区	関西地区	関東地区	その他	計						福岡県内	福岡県外	計	
平成23年度	124	1,932	16	48	30	31	12	121	97.6	平成23年度	29	483	17	8	21	29	100
平成24年度	105	1,785	17	40	23	28	13	104	99	平成24年度	33	483	15	6	23	29	87.9
平成25年度	116	2,185	19	31	25	45	14	115	99.1	平成25年度	10	573	57	0	9	9	90
平成26年度	104	2,416	23	24	18	43	13	98	94.2	平成26年度	9	657	73	2	7	9	100
平成27年度	113	2,633	23	34	20	46	12	112	99.1	平成27年度	10	778	77	5	5	10	100
平成28年度	112	3,187	28	35	20	39	16	110	98.2	平成28年度	11	1,094	99	2	9	11	100

(3) 産業別就職状況

区分	学科	本科					専攻科			
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
電気、ガス、熱供給、水道業		1	1	2			4		1	1
鉱業、採石業、砂利採取業					1		1			
建設業		3					3			
食品・飲料・たばこ・飼料			2		3		5			
繊維工業						1	1			
印刷				1		5	8	2		2
化学工業・石油・石炭製品			2	1	17	1	19		2	2
鉄鋼業・非鉄金属・金属製品		2	1	1		14	18		2	2
一般機械器具						5	5			
電気・情報通信機械器具		3	2	7			12			
輸送用機械器具		8	5	3	1	1	18	2		2
精密機械器具		2	3	2	1		8			
その他の製造業					1	1	2			
情報通信業			1	2			3	1		1
運輸業			1	1			2			
サービス事業								1		1
公務員			1				1			
合計		19	19	25	24	23	110	6	5	11

研究活動

1. 産学連携

(金額:千円)

制度名	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	件数	金額								
共同研究	18	4,476	23	9,832	25	6,961	26	12,524	19	6,919
受託研究	2	568	3	3,111	1	0	1	100	1	1,700
奨学寄附金	21	15,506	20	15,066	21	18,978	25	16,881	22	16,829

※奨学寄附金には、創基 75 周年・高専創立 50 周年記念募金は含まない。

2. 科学研究費補助金等

(1) 科学研究費補助金

平成 29 年度実施課題一覧

(金額:平成 29 年度受入額(直接経費+間接経費)、円)

種目	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
基盤研究(C)	スパース表現を用いた多視点ライトフィールド画像の実時間符号化に関する研究	平成 27 年度 ~ 平成 29 年度	制御情報工学科	教授	黒木 祥光	3,900,000
	超臨界流体法による多孔性配位高分子ナノ粒子複合体の創製とその工業的利用技術開発	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度	生物応用化学科	准教授	松山 清	4,810,000
	光照射で濡れ性制御が可能なポリイミドの創成とエレクトロニクス・バイオ分野への応用	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度	生物応用化学科	教授	津田 祐輔	4,810,000
	ゴム製品におけるフィラー補強効果のテラヘルツ分光による解明	平成 28 年度 ~ 平成 30 年度	電気電子工学科	教授	平川 靖之	4,940,000
	会合発光色素のレクチンへの可逆的な結合・解離に基づく生体蛍光検出	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度	生物応用化学科	教授	石井 努	4,810,000
若手研究(B)	抗力型風車高出力化のための集風ケーシング偏流装置の最適化	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度	機械工学科	准教授	谷野 忠和	2,210,000
	工学倫理における公衆優先原則と環境配慮義務の相反に関する研究	平成 29 年度 ~ 平成 31 年度	一般科目(文科系)	准教授	藤木 篤	2,730,000
奨励研究	クラウド型道路損傷計測システムの開発	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度	制御情報工学科	准教授	松島 宏典	2,860,000
	好奇心と創造性に画像処理で応えるタフで実用的な荷物搬送ロボットの設計・試作	平成 29 年度 ~ 平成 30 年度	教育研究支援センター	技術専門職員	岡崎 朋広	510,000

(2) その他の補助金

平成 29 年度実施課題一覧

名称	課題名	期間	所属	職	氏名	金額(円)
公益財団法人高橋産業経済研究財団	会合発光色素-レクチン複合体の蛍光 OFF-ON 変化による糖質の蛍光検出	平成 29 年度	生物応用化学科	教授	石井 努	1,300,000

社会貢献

1. 生涯学習等

社会貢献及び理工学の振興を目的として、平成 28 年度は以下の公開講座等を実施しました。

開催月	講座名称	対象者	参加者数	開催月	講座名称	対象者	参加者数
4 月	「仕上げ作業実技講習会」(全6回)	社会人	6 名	8 月	「ソーラーカーを作ろう!」	中学生	11 名
7 月	「ソーラーカーを作ろう!」	中学生	14 名	8 月	「身の回りのエレクトロニクス」	小学生3年以上	20 名
7 月	「金属を溶かして青銅鏡を作製してみよう!」	中学生	8 名	8 月	「ゲルマニウムラジオを作ろう」	中学生	9 名
7 月	「化学への招待~楽しい生物・化学教室~」	小学生5・6年、中学生1・2年	17 名	8 月	「3D-CAD 基礎講座」	社会人	9 名
7 月	「金属を溶かして青銅鏡を作製してみよう!」	中学生	6 名	9 月	「3D-CAD/CAE 公開講座」	社会人	8 名
7 月	「あなたも1日サイエンティスト」	中学生	14 名	11 月	「公差設計基礎講座」	社会人	7 名
8 月	「ミクロの世界を見てみよう」	小学生	28 名	3 月	「いっしょに、作ってみよう!」	小学生4年以上と保護者同伴	22 名
8 月	「エレクトロニクスサマースクール」	中学生2・3年	29 名		ラジオを組み立てよう		

2. テクノネット久留米

テクノネット久留米は、本校による地域連携活動の強化を図る目的で平成 24 年 10 月に発足し、福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展や地域の人材の育成等を目指しています。

平成 27・28 年度は、本校と地域産業界等との連携・交流を一層深め、地域産業の発展に寄与するとともに、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、本校とテクノネット久留米会員との共同研究4件のほか、次の事業を実施しました。

年月日	事業名
平成 27 年 7 月 15 日	テクノネット久留米講演会 講師:松井 博氏 (作家・経営者、元アップルシニアマネージャー)
平成 27 年 8 月 31 日	テクノネット久留米会員紹介ブック 2015 発行
平成 27 年 10 月 2 日	平成 27 年度テクノネット久留米定時総会
平成 27 年 10 月 2 日	テクノネット久留米交流会
平成 28 年 3 月 25 日	テクノネット久留米ラポツアー
平成 28 年 4 月 28 日	テクノネット久留米会員紹介ブック 2016 発行
平成 28 年 6 月 24 日	テクノネット久留米講演会 講師:坂爪 剛夫氏 (元・宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 鹿児島宇宙センター所長)

年月日	事業名
平成 28 年 8 月 31 日	テクノネット久留米工場見学 (株式会社ブリヂストン久留米工場)
平成 28 年 10 月 28 日	平成 28 年度テクノネット久留米定時総会
平成 28 年 10 月 28 日	テクノネット久留米講演会 講師:小林 幸人氏 (熊本高等専門学校 共通教育科 教授)
平成 28 年 10 月 28 日	テクノネット久留米交流会
平成 29 年 3 月 10 日	テクノネット久留米企業説明会 2017

国際交流

1. 交流協定

締結先	国	締結年月日	終了年月日
合肥学院大学	中国	平成 7 年 10 月 5 日	無期限
啓明大学校	韓国	平成 8 年 1 月 22 日	無期限
レッドリバー・コミュニティーカレッジ	カナダ	平成 9 年 2 月 3 日	無期限
テマセク・ポリテクニク	シンガポール	平成 18 年 8 月 3 日	無期限
リパブリック・ポリテクニク	シンガポール	平成 18 年 8 月 3 日	無期限
シンガポール・ポリテクニク	シンガポール	平成 18 年 8 月 3 日	無期限
キングモンクット工科大学ラカバン校	タイ	平成 23 年 1 月 10 日	平成 33 年 1 月 9 日
ベトロナス工科大学	マレーシア	平成 26 年 2 月 6 日	平成 31 年 2 月 5 日
ガジャマダ大学	インドネシア	平成 26 年 2 月 6 日	平成 31 年 2 月 5 日
ガジャマダ大学専門学校	インドネシア	平成 26 年 2 月 6 日	平成 31 年 2 月 5 日
キングモンクット工科大学北バンコク校	タイ	平成 26 年 2 月 7 日	平成 31 年 2 月 6 日
カセサート大学	タイ	平成 26 年 2 月 10 日	平成 31 年 2 月 9 日
ハノイ大学	ベトナム	平成 26 年 6 月 9 日	平成 31 年 6 月 8 日
廈門理工学院	中国	平成 26 年 6 月 28 日	平成 31 年 6 月 27 日
モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成 26 年 8 月 2 日	平成 31 年 8 月 1 日
国立台北科技大学	台湾	平成 27 年 3 月 3 日	平成 32 年 3 月 2 日
ダナン大学機構科学技術大学	ベトナム	平成 28 年 6 月 3 日	平成 33 年 6 月 2 日

2. 学生交流

(1) 留学生在籍状況(平成 23 ~ 29 年度)

各年度 4 月 1 日現在(単位:名)

地域	国等	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
アジア	インドネシア	2	3	1	1	2	3	2
	スリランカ	1	1					
	バングラデシュ			1	1	1		
	マレーシア	5	5	3	4	5	5	4
	モンゴル		1	1	1		1	1
	ラオス	1	1	1				
アフリカ	インド						1	1
	ガボン					1	1	1
合計		9	11	7	7	9	11	9

(2) 学生海外派遣実績(平成 24 ~ 28 年度)

(単位:名)

地域	国等	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
アジア	カンボジア、シンガポール、タイ、台湾、中国、マレーシア、ベトナム、インドネシア	5	12	5	7	6
北米	アメリカ、カナダ	2		4	2	
ヨーロッパ	イギリス					
合計		7	12	9	9	6

3. 研究者交流

(1) 研究者受入実績(平成 23 ~ 29 年度)

国名	派遣元	人数(名)	受入先	受入期間
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H23.4.1 ~ H23.9.30
タイ	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	制御情報工学科	H25.5.7 ~ H25.5.30
タイ	マハーサーラカム大学	1	材料工学科	H25.10.1 ~ H26.3.31
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H26.7.1 ~ H26.12.31
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H27.8.1 ~ H27.12.31
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H28.9.4 ~ H29.9.3

(2) 研究者派遣実績(平成 22 ~ 27 年度)

① 海外渡航実績

(単位:名)

地域	主な国	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
アジア	韓国、シンガポール、タイ、台湾、中国 他 5 개국	7	10	15	10	13	14
アフリカ	エジプト	1					1
オセアニア	オーストラリア		1				
北米	アメリカ、カナダ	2	4	2	6	2	1
ヨーロッパ	イタリア、フランス、ベルギー、他 8 개국	2	2	4	2	4	4
合計		12	17	21	18	19	20

② 在外研究員派遣実績

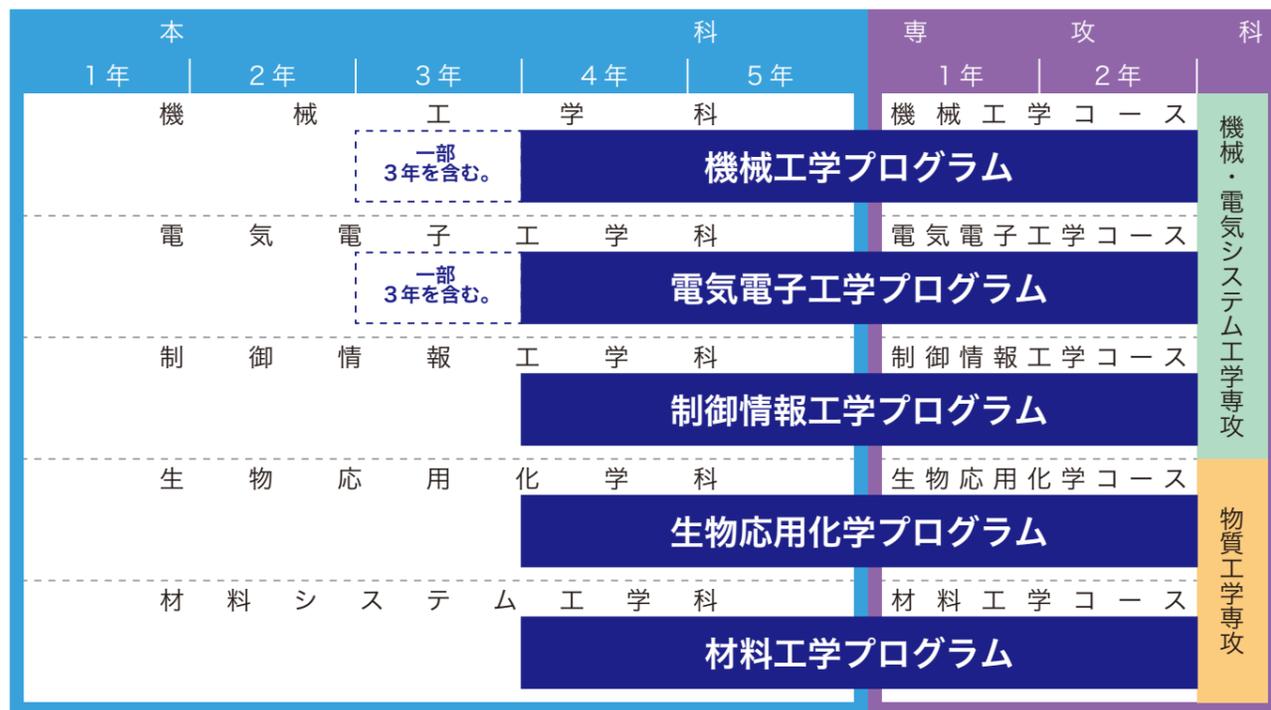
国名	派遣先	人数(名)	期間
タイ	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	H24.7.22 ~ H24.11.30
イギリス	サウサンプトン大学	1	H27.3.9 ~ H28.3.8
アメリカ	ニューヨーク市立大学	1	H28.5.27 ~ H29.3.30

技術者教育プログラム

1. 概略

本校の本科4年から専攻科2年に至る4年間の教育については、第三者である一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）より、国際水準や社会的要求に適合する内容とレベルの教育が実施されている技術者教育プログラム（機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム、材料工学プログラム）として認定を受けており、その国際的同等性が保証されています。

所定の要件を満たした専攻科修了生は、JABEE認定プログラムの修了生として認定を受けることができ、国家試験である技術士資格試験の第一次試験が免除されます。本校においては、平成16年度以降、422名（平成29年3月末現在）がJABEE認定プログラムの修了生として認定を受けています。



2. 各プログラムの学習・教育到達目標

(1) 機械工学プログラム

- (A) 広い視野から技術者倫理を理解し自覚できる。
 - (A-1) 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
 - (A-2) 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
 - (A-3) 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。
- (B) 数学、物理、情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
 - (B-1) 数学に関する知識とその工学的応用力
 - (B-2) 物理に関する知識とその工学的応用力
 - (B-3) 情報処理に関する知識とその工学的応用力
- (C) 機械工学に関する以下の専門知識を教授し、職業上応用できる基礎能力を学生の進路に配慮し育成する。
 - (C-1) 材料と強度
 - (C-2) 機械設計
 - (C-3) 生産工学
 - (C-4) 熱・流体工学
 - (C-5) 制御・情報技術
- (D) 実験・演習を実施し、その結果を工学的に解析し考察できる。
 - (D-1) 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
 - (D-2) 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。
- (E) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。
- (F) 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。
- (G) 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
 - (G-1) 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
 - (G-2) 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
- (H) 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

(2) 電気電子工学プログラム

- (A) 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
 - (A-1) 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
 - (A-2) 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- (B) 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
 - (B-1) ICT電子機器のしくみを理解し説明できる。
 - (B-2) ICT電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- (C) もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
 - (C-1) 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
 - (C-2) 実験データを解析、考察し説明できる。
 - (C-3) 共同で実験・演習を遂行できる。
- (D) 電気電子技術の基礎となる学力の修得
 - (D-1) 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
 - (D-2) 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- (E) 技術に関するコミュニケーション能力の育成
 - (E-1) わかりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
 - (E-2) 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- (F) 技術者倫理感覚の育成
 - (F-1) 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
 - (F-2) 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- (G) 企画・管理能力の育成
 - (G-1) 実験・実習や社会との連携活動の中から技術的な課題を見出すことができる。
 - (G-2) 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

(3) 制御情報工学プログラム

- (A) 技術者としての広い視野と倫理観
 - (A-1) 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
 - (A-2) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解することができる。
- (B) 基礎工学の知識と応用力
 - (B-1) 数学、自然科学、情報技術に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
 - (B-2) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- (C) 専門工学の知識と応用力
 - (C-1) 制御、情報およびこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
 - (C-2) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
 - (C-3) 上記の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- (D) デザイン力
 - 学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- (E) コミュニケーション力
 - (E-1) 日本語で自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
 - (E-2) 英語による基礎的なコミュニケーションができる。

- (F) 実践力
 - (F-1) 他社と協力して課題に取り組むことができる。
 - (F-2) 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
 - (F-3) 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

(4) 生物応用化学プログラム

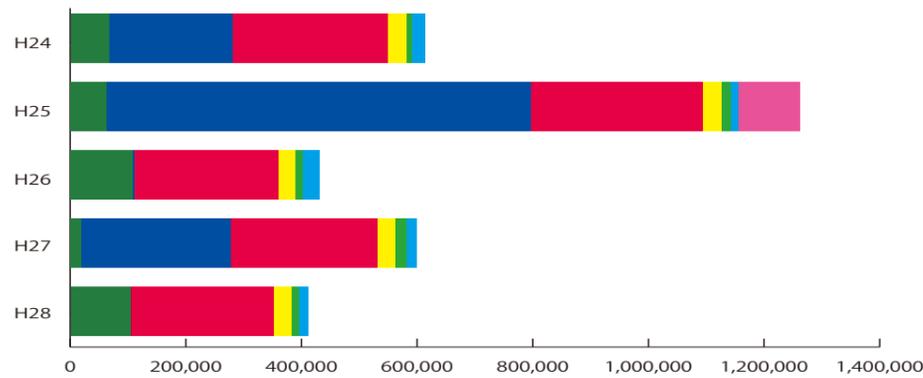
- (A) 技術者倫理と多面的視野
 - (A-1) 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
 - (A-2) 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- (B) 生物応用化学基礎と工学基礎
 - (B-1) 生物および化学に関する基礎知識を習得する。
 - (B-2) 物理、数学および情報技術を工学に応用できる。
- (C) 生物応用化学の専門知識と応用力
 - (C-1) 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識、および両分野に共通して必要な専門知識を習得しそれらを当該工業分野に応用することができる。
 - (C-2) 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術、および両分野に共通して必要な実験技術を体得し、それらを種々の問題解決に応用することができる。
- (D) 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- (E) 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- (F) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- (G) 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

(5) 材料工学プログラム

- (A) 自然科学および情報処理技術に関する知識
 - (A-1) 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識を持ちその応用ができる。
 - (A-2) 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応できる。
- (B) 材料に関する基本的知識と応用力
 - (B-1) 材料、特に金属およびセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付けている。
 - (B-2) 材料、特に金属およびセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付けている。
 - (B-3) これらの知識を工学問題の解決に活用できる。
- (C) 工学的基礎原理・現象の理解能力
 - (C-1) 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる。
- (D) 調査および実行能力
 - (D-1) 課題に対して自主的に調査できる。
 - (D-2) 計画性を持って物事に取組み、実行できる。
 - (D-3) 課題の結果を間違いの少ない文章および口頭で表現し、討論できる。
- (E) 異文化理解とコミュニケーション能力
 - (E-1) 英語により材料工学に関する基本的コミュニケーションができる。
- (F) 多面的視野と技術者倫理
 - (F-1) 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考えることができる。
 - (F-2) 技術者の社会的責任を自覚することができる。
- (G) 地域産業での実務経験
 - (G-1) インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

財務

1. 収入

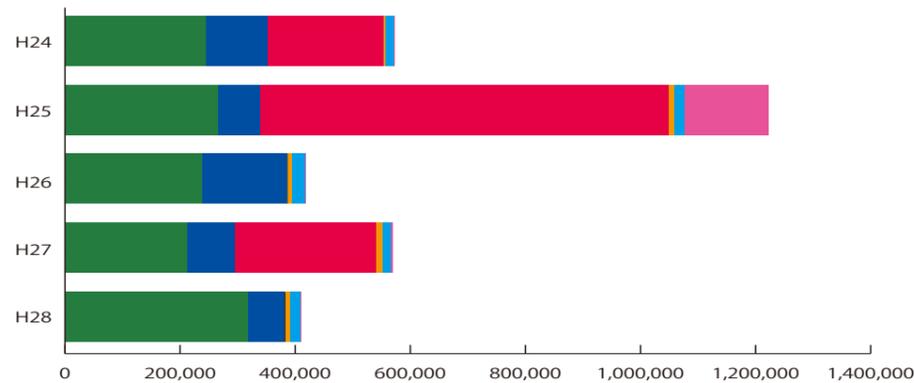


- ※1 平成24年度の施設整備費補助金は、図書館改修予算
- ※2 平成25年度の施設整備費補助金は、ものづくりセンター改修及び平成24年度補正予算
- ※3 平成25年度のその他補助金には、平成24年度補正予算設備調達予算を含む。
- ※4 平成27年度の施設整備費補助金は、屋内運動場等耐震改修及び管理棟改修及び災害復旧費
- ※5 平成28年度の運営費交付金は、営繕事業予算を含む。

(単位:千円)

科目\年度	H24	H25	H26	H27	H28	説明
運営費交付金	64,085	58,926	108,582	18,466	104,394	業務運営に必要な資金として国から交付されたもの
施設整備費補助金	209,151	736,980	0	253,370	0	本校の基盤施設整備のために国から交付されたもの
授業料収入	263,064	257,752	254,263	251,918	250,835	学生から納付された授業料
その他自己収入	31,249	30,571	31,562	30,765	31,654	本校が受け入れた検定料、入学金、寄宿料等
産学連携等収入	9,985	16,563	12,251	18,448	13,749	産学官連携事業を実施するために連携相手から受入れた費用
寄附金収入	23,821	22,063	30,128	18,156	16,329	本校の業務を財政的に支援するために寄附された現金等
その他補助金	1,760	151,743	990	2,100	1,255	特定の事業を実施するために国等から交付されたもの
合計	603,115	1,274,598	437,776	593,223	418,216	

2. 支出



- ※ 平成28年度の教育研究費には、旧情報処理センター改修、制御情報工学科棟外空調設備、学生寮便所改修に係る費用を含む。

(単位:千円)

科目\年度	H24	H25	H26	H27	H28	説明
教育研究費	252,374	274,652	244,015	218,329	327,297	教育及び研究に要した金額
一般管理費	110,951	75,312	154,882	86,552	67,172	管理部門に要した金額
施設整備費	209,151	736,980	0	253,371	0	施設整備費補助金の対象事業に要した金額
産学連携等研究経費	3,707	9,698	9,384	12,653	9,741	産学官連携事業に要した金額
寄附金事業費	16,094	19,206	23,271	16,914	19,776	寄附金で執行した金額
その他補助金	1,039	151,743	990	2,100	1,255	その他補助金で執行した金額
合計	593,316	1,267,591	432,542	589,919	425,241	

施設

1. 保有不動産

(1) 土地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舎
	校舎等	屋外運動場	学生寮	計	
107,215㎡	69,157㎡	31,272㎡	4,800㎡	105,229㎡	1,986㎡

(2) 建物

区分	名称	構造	延面積 (㎡)	区分	名称	構造	延面積 (㎡)
校舎等施設	機械・材料工学科棟	R4	2,691	校舎等施設	中央ボイラー室	R1	151
	D1・D2 講義室	R1	288		物品庫	B1	32
	D3・D4 講義室	R1	370		燃料庫	B1	20
	ものづくり教育センター	R2	1,950		変電室	R1	79
	熱・材力実験棟	R2	601		事務部倉庫	R1	54
	流体実験室	R2	264		記念館	R1	252
	材料実習棟	R2	405		小計		20,701
	電気電子・制御情報工学科棟	R4	2,720		図書館総合情報センター	R2	1,702
	電気室	R1	38		第一体育館	S1	1,121
	制御情報工学科棟	R3	793		第二体育館	RS1	880
	専門教室棟	R3	663		武道場	R2	450
	生物応用化学科棟	R4	2,126		練心館(合宿研修所)	R2	223
	生物応用化学北別館	R1	138		学生部室	S1	612
	一般教室棟	R3	1,437		弓道場	S1	168
	一般文科・理科棟	R3	1,559		体育器具庫	S1	180
	一般共通棟	R2	419		ウェーブホール	S1	519
	専攻科棟	R3	1,202		小計		5,855
総合試作技術教育センター	R1	438	学生寮施設	学生寄宿舎(筑水寮)	R4	3,002	
生物・化学実験棟	R1	300		学生寄宿舎2号館(筑水寮)	R4	781	
産学民連携テクノセンター棟	R2	413		学生寄宿舎(つつじ寮)	R3	578	
管理棟	R2	1,156		小計		4,361	
守衛室	S1	20	職員宿舎(7戸)	W	581		
車庫	R1	122	合計		31,498		

2. 各種施設

(1) ウェーブホール

「学生が怒涛のごとく攻める様子」をイメージして名付けられたこの施設は、学生・教職員の憩いの場として、カフェテリアレストラン、売店、自販機コーナー、ラウンジを備えており、文化部の活動紹介や講演会等の場としても活用されています。



(2) 練心館

学生の心身を練磨し、協調融和の精神を養い、健全なる学校生活の発展向上を図ることを目的とした研修施設で、研修室7室を備えており、主にクラブの合宿場所として活用されています。



(3) 記念館

旧制の久留米高等工業学校の設立から数えて40周年を迎えたのを記念して、本校同窓会久留米工業会により建設され、本校に寄贈された施設で、会議室、展示室、和室を備えています。

展示室には本校の歴史的資料が展示されており、和室は茶道部や華道部等の活動場所としても活用されています。



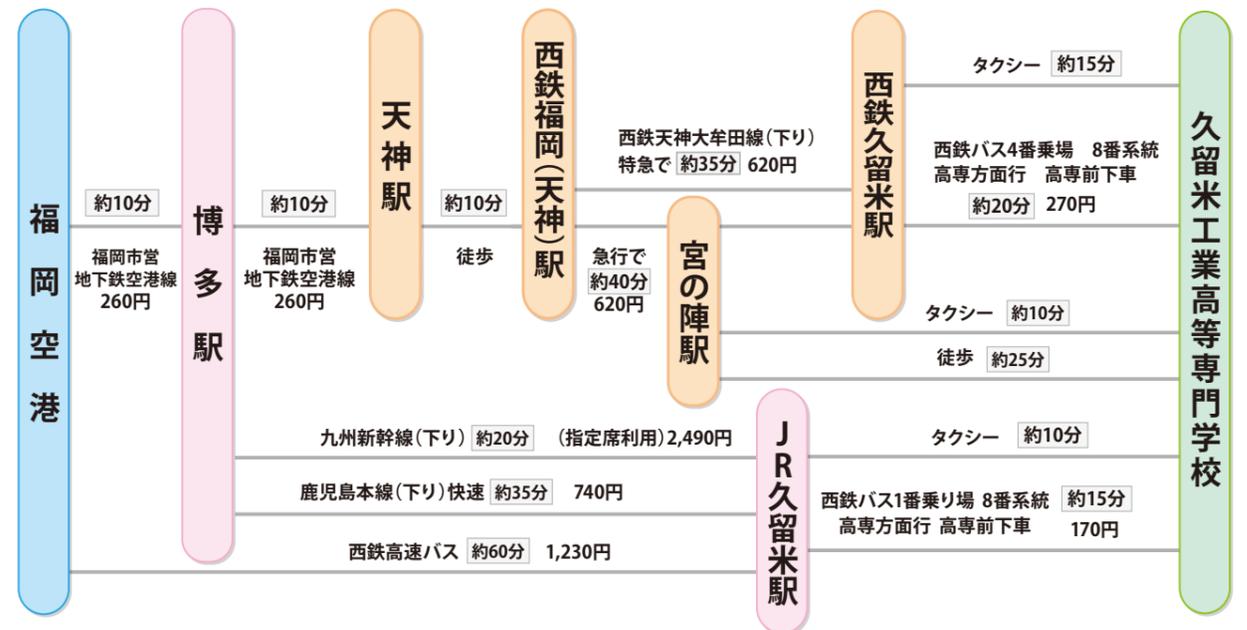
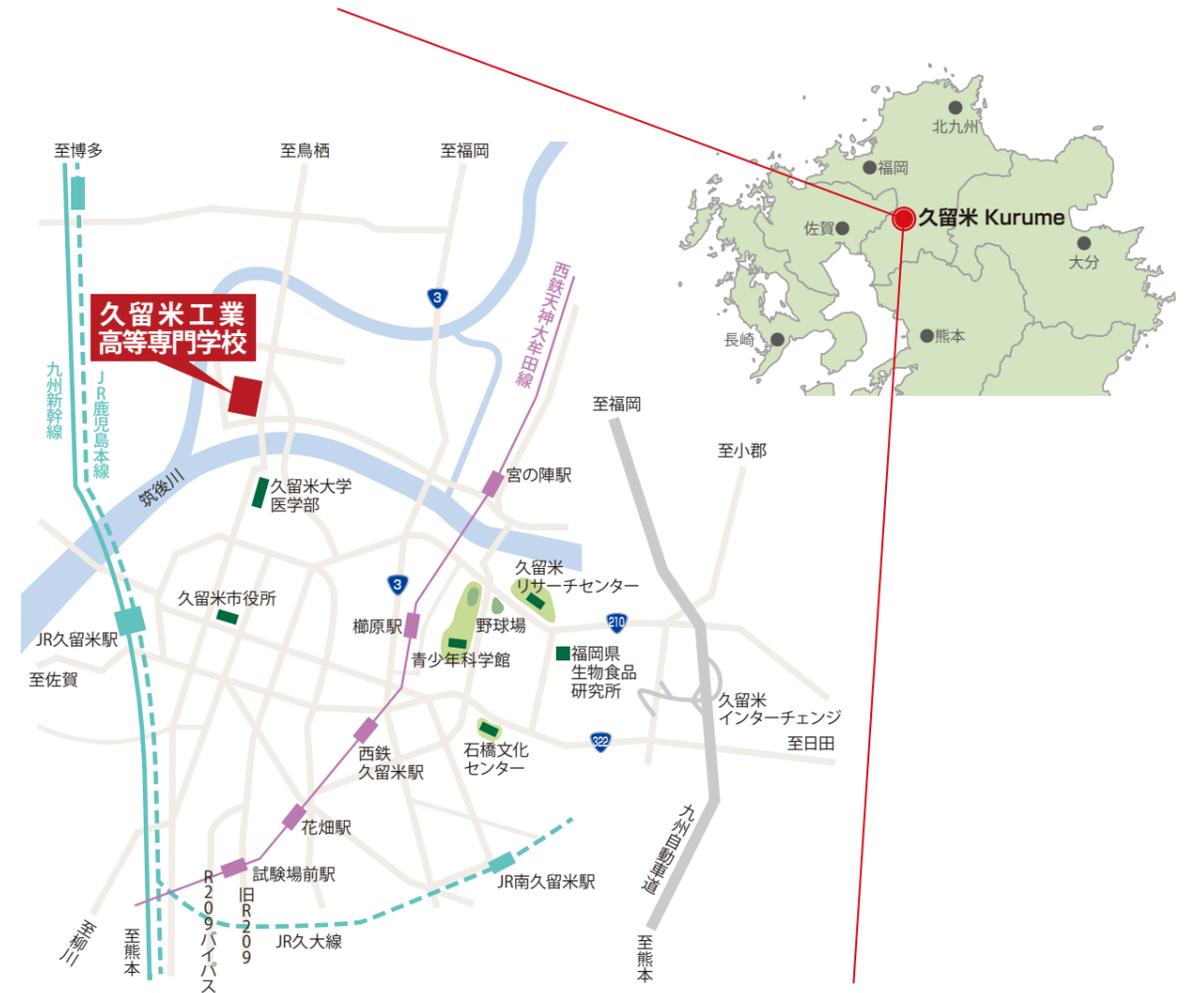
3. 配置図



既設建物
 境界線

- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|
| ① 管理棟 | ⑪ 専攻科棟 | ⑳ 学生部室 |
| ② 一般共通棟 | ⑫ 材料実習棟 | ㉑ 武道場 |
| ③ 一般教室棟 | ⑬ 専門教室棟 | ㉒ 第一体育館 |
| ④ 一般文科・理科棟 | ⑭ 生物応用化学科棟 | ㉓ 第二体育館 |
| ⑤ 機械・材料工学科棟 | ⑮ 流体実験室 | ㉔ 図書館・総合情報センター |
| ⑥ 電気電子・制御情報工学科棟 | ⑯ 熱・材力実験棟 | ㉕ テニスコート |
| ⑦ 総合試作技術教育センター | ⑰ 練心館 | ㉖ 弓道場 |
| ⑧ ものづくり教育センター | ⑱ 学生寄宿舍(筑水寮) | ㉗ プール |
| ⑨ 生物・化学実験棟 | ㉒ 学生寄宿舍(つつじ寮) | ㉘ 産学民連携テクノセンター棟 |
| ⑩ 制御情報工学科棟 | ㉓ ウェーブホール | ㉙ トラック |
| | | ㉚ 野球場 |

アクセス



平成 29 年度 学 校 要 覧

平成 29 年 7 月

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校 総務課総務係
〒 830-8555 福岡県久留米市小森野一丁目 1 番 1 号
TEL 0942-35-9300 (代表) FAX 0942-35-9307
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>
